

第60号

学体連会報

令和5年度



公益財団法人 日本学校体育研究連合会
(<http://www.gakutairen.jp>)

(公財)日本学校体育研究連合会

JASPE
足育



JES日本教育シューズ協議会

JES

Just Evidence Shoes

“足育”事業を共催しています

足が変われば子どもが変わる!
子どもが変われば未来が変わる!



JASPE 足育って?

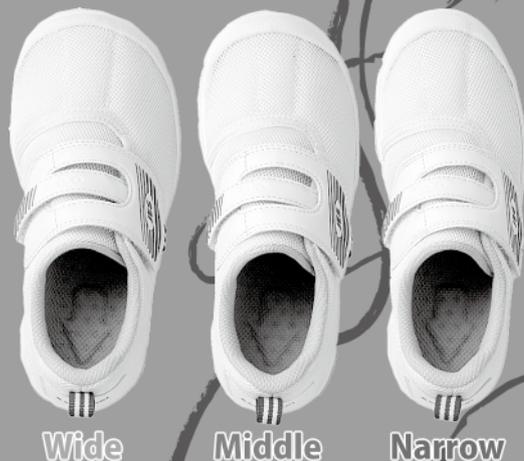
JASPE 足育について詳しくはこちら



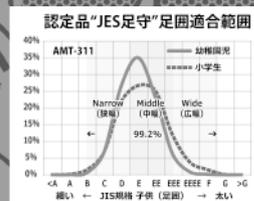
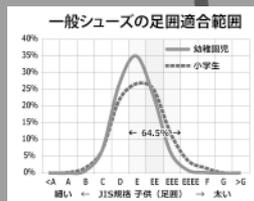
認定体育用品
足幅対応シューズ



AMT-3110 Wide・Middle・Narrow 3-width
14.0cm~29.0cm



(公財)日本学校体育研究連合会から
足幅対応 JES足守シューズなどが
特に優れた優良体育用品として
認定を受けました。



足元からの健康教育 2022年度
「足育」のススメ

公益財団法人 日本学校体育研究連合会 JASPE足育推進委員会

もっと楽しく JASPE足育が
お手伝い
します!



「足育」ってご存じですか?実は、40%以上の子どもたちが、
足にトラブルをかかえています…子どもたちのよりよい未来
のために、足元からの健康教育「足育」を始めてみませんか?

まずは、ここから!

- 正しい靴の履き方を知る
- 正しい足のサイズを測る
- 学校に足育の講師をよんでみる
- 保健指導の内容を知る

As a First Step!! 始めの一步をふみだしましょう!!

ある朝、今日も一日が始まります。



靴を正しく履く「あたりまえ」の事が、毎回できていますか?

正しい靴の履き方を知っていますか? →



JASPE 足育推進委員会

児童・生徒の安全や健康のため
学校体育用具・用品の検討・選定に
ご参照・ご活用下さい。



新しい全国学校体育実技講習会に向けて

会長 友添 秀則

日頃は日本学校体育連合会（以下、本会という）の諸事業にご支援・ご鞭撻を賜り、厚くお礼申し上げます。本年度もこうして、皆さまに会報をお届けできることをうれしく思います。

さて、新型コロナウイルス感染症によって、社会が停止してしまっただけのような状況が長く続いて参りました。油断はできませんが、ようやくコロナも落ち着き、社会が再び動き出したように思います。この間、コロナによって被った損失や被害は、計り知れないものがありました。学校教育や学校体育においても、様々な問題を残しています。

コロナ禍の体育授業は子供同士の接触を避け、シユートが決まってもハイタッチを禁じ、マスク着用が義務付けられるなど、様々な制約下で行われて参りました。仲間との交流や他者と共に思いっきり体を動かし、競い合う運動の自発的な楽しさの追求という、体育授業本来の意味や意義を十分に味わうことができない期間が続きました。さらに、家庭や地域での運動機会の減少もあり、子供達の体力の低下も続いています。

コロナが収束したわけではありませんので、感染対策には最大限の配慮が必要ですが、コロナの五類移行もあって、体育授業での子

供たちの行動制限は以前に比べて少なくなり、本来の体育授業に近い形で行われるようになりました。しばらく運動やスポーツから遠ざかった児童生徒に、仲間と共に体を動かしたり、ルールの下で競い合う運動やスポーツの楽しさを味わったり、同時に体力の回復や向上を図る上で、今こそ好機なのではないでしょうか。そして、このような時期だからこそ、私達指導者は研修会に積極的に参加したり、優れた授業実践記録を同僚と論評したりしながら、自らの指導力量や教授技術を高め、良質の体育授業を提供できる機会としようではありませんか。

ところで、本会では時々の時代的・社会的要請を受け止め、体育実技の講習会を実施して参りました。第一回「全国学校体育指導者講習会」を一九七〇（昭和四五）年に開催し、第十六回一九八五（昭和六〇）年には会の名称を「全国学校体育実技研修会」と改め、コロナ禍の期間を除いて現在に至るまで継続して参りました。一九七六（昭和五二）年からは「小学校の部」、一九八一（昭和五六）年には「養護学校の部」、一九八三（昭和五八）年には「幼稚園・保育園の部」が生まれています。さらに、一九九一（平成三）年には「中学校・高校の部」を設け、

授業における教授技能を高めるお手伝いをして参りました。

今夏七月開催の小学校の部には一二〇名、青森県など東京都以外の七府県からも参加者を得て、盛會裡に終わりました。また、南スーダンから二十一名の体育指導者が視察に訪れました。ただ、何れの部会の研修会も、東京都からの参加者が圧倒的に多く、それ以外の道府県の参加者が少ない現状です。

そこで理事会では、文字通り「全国」講習会とすべく長塚琢磨・担当理事を中心に検討を重ねて参りました。そこで、試行的に本年八月に兵庫県教育委員会のご協力のもとに共催という形で神戸市において、小学校実技研修会を開催する運びとなりました。兵庫県の先生方に加え、他府県からの参加もあり、意義深い研修会となりました。

今後は、東京都以外で年に一度、全国実技講習会を開催したいと思えます。開催経費の一助に本部から研究助成金の支給を行います。どうか、全国講習会開催をご希望の道府県支部は、本会事務局まで奮ってお問い合わせ下さい。良質の体育授業は、指導者の地道な研鑽の上にこそ実現されるものと考えております。

表紙にある学体連ロゴマークについて



（公報）日本学校体育研究連合会

上部の円は幼児を、それを受ける形で3つの弧が描かれている。小さな弧から順次、小学生、中学生、高校生を表示している。幼児・児童・青年がしっかりと大地に足を踏んばり、両腕を高くかかげて、生き生きと運動している姿をイメージすることができる。子どものあり得べきシユエマを発展的系統的に象徴している『学校教育のシンボリズム』ないしシンボシユエマ。図柄は紫紺の地に白抜きである。（会報第28号浅田隆夫理事長（当時の役職））

〒151-0052 東京都渋谷区神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
公益財団法人日本学校体育研究連合会
電話03-3465-3954 FAX03-3465-7464
発行者：友添 秀則
発行日：令和5年10月31日
mail: gaku-tairen@msb.biglobe.ne.jp

目次

会長挨拶	1
座談会	2
全国学校体育研究大会近年度開催地紹介	11
令和4年度受賞 体育授業優秀教員 授業実践紹介	12
第61回 全国学校体育研究大会滋賀大会を終えて	18
第62回 全国学校体育研究大会山形大会開催にあたって	19
山形大会分科会授業の見どころ	20
令和5年度 最優秀校（文部科学大臣賞）受賞校紹介	23
令和5年度 体育授業優秀教員紹介	24
令和5年度 全国学校体育実技指導者講習会の実施報告	25
令和4年度 各都道府県教育委員会長期研修生等合同発表大会	29
令和5年度 JASPE足育（あしいく）の推進について	33
令和4年度 賛助会員（個人）一覧	45
令和5年9月期 賛助会員（法人）一覧	46
広告	47

第60号

座談会

日時 令和五年七月二十二日(土) 午後一時から
会場 ZOOMによる開催

「学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」をテーマに、指導主事の先生方による座談会を実施しました。
体育・保健体育を担当している指導主事の方々に、学習指導要領の趣旨を生かした授業実践において大切となる視点等についてお話をさせていただきました。

吉原理事(以下、吉原)

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

座談会の進行につきましては、学体連理事長で国士館大学の教授の細越淳二先生にお願いいたします。

今回は、各自自治体の指導主事の皆様に、「学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」という内容でお話をさせていただきます。

細越理事長(以下、細越)

今日は、各自自治体の指導主事の皆様に、「学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」という内容でお話をさせていただきます。

進行を務めます細越です。よろしくお願いたします。

お話をいただく柱として三点考えております。

指導主事の先生方による座談会は、これまであまりなかったと思います。日ごろ学校の先生方に指導する立場でお考えになられていること等、お話しください。

一点目は、学習指導要領の趣旨を生かした授業実践のポイント、またキーワードについてです。

まず、自己紹介をお願いいたします。

二点目は、学校の先生方に説明や指導される際に、特に重点を置いておられること、そして

三上孝志先生(小学校)(以下、三上)

三上孝志先生(小学校)(以下、三上)

青森県教育庁スポーツ健康

課、小学校体育担当で三年目に

なりました三上孝志と申します。よろしくお願いたします。

米川奈緒先生(小学校)(以下、米川)

奈良県教育委員会健康・安全

教育課の米川奈緒と申します。指導主事になって四年目です。今日はよろしくお願いたします。

大野小百合先生(中学校)(以下、大野)

愛媛県教育委員会保健体育課

の大野小百合と申します。七年目になります。よろしくお願いたします。

綱島毅先生(高等学校)(以下、綱島)

群馬県教育委員会健康体育課

の綱島毅と申します。高等学校を担当しております。どうぞよろしくお願いたします。

細越

今回の座談会のテーマは、「学習指導要領に基づく体育科・保健体育科の指導と評価」です。最初に、指導要領に示された内容で特にここが大事だと考えられる点、あるいは授業実践のキーワードとなること等について、お考えを聞かせてください。

現状にあります。

その中で一年目のときに、自分の得意分野の体育の授業を見る機会があり、先生方に「指導要領はこうなりましたよ」と張り切るあまり、少し強めの指導をしてしまい後悔したことを覚えております。体育の授業は、体育を研究している方以外、なかなか公開してくれない現状が本県にはあり、その中でせっかくな公開していただいたのに、強い指導をしてしまったことが、後悔の理由です。青森県の先生方も、参観日や所長等の訪問時に体育の授業を公開しようとか、体育の研修会に参加してみようと思ってもらえるよう、高い目標を設定するばかりではなく、まず体育の授業の平均化を

三上

私は指導主事という立場ではありませんが、授業をなかなか見に行くことができず、学校訪問は年に三回くらいしか行けない

三上

私には指導主事という立場ではありませんが、授業をなかなか見に行くことができず、学校訪問は年に三回くらいしか行けない

三上

私には指導主事という立場ではありませんが、授業をなかなか見に行くことができず、学校訪問は年に三回くらいしか行けない

三上

私には指導主事という立場ではありませんが、授業をなかなか見に行くことができず、学校訪問は年に三回くらいしか行けない

三上

私には指導主事という立場ではありませんが、授業をなかなか見に行くことができず、学校訪問は年に三回くらいしか行けない

私には指導主事という立場ではありませんが、授業をなかなか見に行くことができず、学校訪問は年に三回くらいしか行けない

座談会 出席者



三上 孝志 先生
青森県教育庁
スポーツ健康課
指導主事



細越 淳二 理事長
国士舘大学
教授



綱島 毅 先生
群馬県教育委員会
健康体育課
指導主事



大野 小百合 先生
愛媛県教育委員会
保健体育課
指導主事



米川 奈緒 先生
奈良県教育委員会
健康・安全教育課
指導主事

図る取組が大事だと今は考えています。

それと同時に、青森県の健康福祉部とコラボして、「短命県返上」を目指して、肥満傾向児を減らす取組を進めています。できれば幼稚園と小学校のつながりを考慮して、幼児期からの運動習慣を身に付けさせたいと考えています。運動習慣のため、学校はとても大事な場所だと思っています。学校の体育の授業、もしくは学校の先生の力によって、子供たちが体育好き、運動好きになっていくことで、それが豊かなスポーツライフにもつながっていくだろうし、運動習慣ができることで健康課題などにも解決につながっていくのではないかと考えています。

そういった点から、私の考えるキーワードは「授業改善」です。「授業改善」は、まず先生方が授業を楽しんでいることから始まり、次いで主役である子供たちも楽しんで取り組むことで、技能等も身に付けていけると思います。つまり「楽しんで授業を行う」といった視点が大き

事だと考えています。

自分自身授業を行っていた際、子供たちができて喜んでい

る様子を見るのが、嬉しくて仕方がなかつたです。そういう感情の反応が出るのが体育だと思

米川 私は今、授業実践のポイントとして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、重点的にお伝えしています。

マット運動の開脚前転を例に挙げると、途中の回転までできるけれど、最後にお尻が上が

らない子供がいたとします。このような場面では、教師が気付いた点を全て伝えるのではなく、子供にどのようなようにしたらいいのかを考えて解決に取り組みませることが大切です。

その際の手段の一つとして、ICT端末の活用が考えられます。子供たちは、技のポイントやコツを確認したり、お手本動画を見たり、自分の技を撮影した動画と比較したりして考えます。また、遅延再生も活用しながら、自分なりに考え、チャレンジすることを繰り返して上達していきます。これは個別最適な学びの一つであり、大切にしたい学び方ですが、それだけに終始しないようお伝えしています。

行うことが重要です。友達のアドバイスやサポート等の支えのおかげで今までできなかった技ができるようになる。また、友達との関わりの中で、自分にはなかった視点や考え方を知り、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。これらの学びの姿を実現するために、協働する場面を意図的に設定してくださいとお伝えしています。子供たちに、友達と一緒にだからこそ「よくわかった」「できた」「もっとチャレンジしたい」という気持ちも味わわせたいですね。

そして、「主体的・対話的で深い学び」を全ての領域で実践することで、体育科が目指している、心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力が少しずつ育まれていくということもお伝えしています。

先生方の中には、体育科への情熱が溢れるあまり、できないことがある子供に対して、「あしたらしい」「こうしたらいい」と必要以上に教える方がおられます。

しかしそれは、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」のチャンスを奪ってしまう可能性があるので、そこはぐっとこらえてくださいということもお伝えしています。その代わりに、子供たちがより良い学びの過程を歩めるように、単元構成やルール、学ばせ方の工夫等とともに、子供たちの思考を促す質問や声かけをすることがとても大切だとお伝えしています。

大野

今回の学習指導要領改訂のポイントの一つに、小学校から高等学校までの十二年間の発達段階を踏まえて指導内容を考えていく、ということが挙げられています。改めてこれを意識することができたのは、二年前の全国学校体育研究大会愛媛大会がきっかけです。

私は元々中学校校籍で、中学校の授業を見せていただく機会が多かったのですが、学体研のときに、高校の先生が幼稚園の授業を見てくださったり、逆に幼稚園の先生が中学校、高校の授

業を参観されたりして、成長過程の違う子供たちの活動の様子をお互いに確認することで多くの発見があり、先生方自身の学び、もちろん私の学びもすごく深まったのを感じました。

今、目の前にいる子供たちがこれまでどのような学びをしてきているのか、この後どのような学びにつながっていくかというのを意識することで、目指す子供たちの姿がはつきり見えてきて、限られた時間の中で指導内容も精選されていくのだと改めて感じました。ですので、この十二年間の系統性というキーワードは、県内の研修会ではしっかりとお伝えをしているところです。

綱島

高等学校では令和四年度から学習指導要領が年次進行になったので、今の一年生と二年生は新しい学習指導要領、三年生は前の学習指導要領になっています。個人的には、新しい学習指導要領では、キーワードとして、「生涯にわたって」ということ

がとても強調されていると感じています。小中高の十二年間で取り組む目標だと思いますが、特に高校は、体育科、保健体育科の最終段階になるので、生徒が卒業後にどうしたら豊かなスポーツライフを実現できるかという視点を、より大切にしなければならぬと考えています。

その上で、どのような資質・能力を身に付けるかが大事になると思います。これまでは技能を高めるとか知識を教え込むというところに、やや片寄りがちでしたが、これからは体育の授業の中だけで完結するものではない、いわゆる汎用的な知識など、社会の中で生きて働く資質・能力を高校でどうやって身に付けていくかが、今まで以上に大事になってくると考えています。

また「知識及び技能」だけでなく、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」など、社会で役立つ、社会で応用できる資質、能力が大事になると思います。

キーワードで大事にしたいと思っているのは、「共生の視点」

です。年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方をみんなで共有して、他者を理解して、相互に認め合える、そういう態度を育てていくことが大事ではないかと考えています。

生徒自身が体育で学んだことを社会で実践することが豊かなスポーツライフにつながるのかなと考えているところです。

細越

次に、自分が管轄するエリアの先生方に説明・指導される際に、指導主事のお立場に特化して、よい授業をつくるために取り組まれていること、気を付けていること、あるいはご苦労されていること等についてお話いただければと思います。また、自治体としてこのような取組をしているということもお話しいただければ嬉しいです。

大野

先生方の研究の視点としても取り上げられることの多いPDCAサイクルについてですが、

これは子供たちの学びの深まりを確認するために大切であるとともに、先生方自身の指導の内容や指導方法のチェックにつなげてくださいとお話しています。

もう一つは、先ほども話題になった「共生の視点」です。学習指導要領でも男女共習が示されていますが、中学校でも学校規模等によって、今までも一クラス単位で男女一緒にやっていると

行っているために共習へのハードルが高くなっているところもあります。この男女共習については、内容のまとまりや一単位

時間の中で、どの場面であれば一緒にやることで効果があるのか、どの場面だと別々にやることで子供たちにプラスになるのかを考えて計画を立ててくださいとお伝えしています。

また共生の視点として、障がいのある子供たちにとって学びのある授業参加の方法を考えて

くださいとお話しています。これは、私自身が特別支援学級の担任をした時に実感したことで

もあります。通常学級の授業に子供たちが参加するときに、授業の流れを止めては申し訳ないとか、他の子供たちが思いっきり楽しむ機会を奪ってしまうのではないかとということを考えてしまい、担任である私自身が少し申し訳なく感じながら授業に参加していた反省が今に生きています。

授業は多様な子供たちがいるのが当たり前で、みんなに優しい授業を考えてくださいとお話しているところです。

綱島

私が先生方にお話しする際には一つ言っているのは、「生徒に単元の見通しをもたせる」ということです。見通しがもてれば、生徒自身が「何が自分に足りな

いのか」を考えて、主体的に活動したり、主体的な学びにつながりたりするので、まずは、しっかりとゴールイメージをもたせることが大事だと考えます。

見通しということ言えば、三年間の見通しをもった年間指導計画の作成もカリキュラムマ

ネジメントの視点から必要だと思うので、そういったこともお願いしています。

それから、具体的な授業の場面と言うと、生徒が自分たちで考えたことに取り組んだり、選択したりという自己決定する場面を作るといことです。例えば、うまくいかなかったときにどこが悪かったのかを繰り返し考え直して取り組む粘り強さや、どこを修正すべきかといった自己調整が学びの場面につながる

ので、そうした場面を取り入れる授業を計画してくださいとお話しています。

先ほど大野先生もおっしゃっていました。校種間の接続も大事だと思っています。中学校での学習実態を把握し、場合によっては学び直しの時間を設けたり、簡単な知識とか技能を高める時間を設けたりするという工夫も、高校一年生では必要だと思えます。

また学習評価についても課題があります。当たり前のことですが、指導したことを評価して

のためにも、指導と評価の計画を作成することの重要性について説明しています。

ICTの活用は大分進んできてはいるとは思っていますが、活用すること自体が目的になっている授業も多く見られます。ICTありきではなく、それを使うことが効率的なのか、効果的なのかという考え方が大事だと思えます。

学習として「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」があると思いますが、その中の「どのように学ぶか」が目的になっている授業が多いと感じることがあります。

デイベートをしましたとかジグソー法をやりましたとか、どのように学ぶかが目的になってしまえば、その活動を通してどういう力をつけさせたいのかまで考えが至らない場面があれば、改善を促すようにしています。

細越

ICTを使って授業を行うことで、授業の中での運動の終わりが早くなった気がするんです

ね。以前は授業終了の五分前くらいまで運動していたのが、十分前くらいにはタブレットを打ち始める。GIGAスクール構

想は、そうした時間の使い方の面でも体育に影響を及ぼしているのかということも気になりま

す。先生方がおっしゃったように、何を学んでいるのかという、内容と方法がマッチしているかどうか

綱島

私は高校担当なので、県立の高等学校に、年に十校ぐらいは訪問に行つて授業を見る機会があります。各学校には四人ぐら

にすればいいんですね」「明日からやつてみよう」というように、前向きに考えてくれる先生

が結構多いんです。ですので、今考えているのは、計画的な訪問ではなく、こちら

とよいと思つていきます。実は小学校も中学校も同じような課題があるように思うので

三上

ややもすると、その先生が受けてきた体育しか知らないという場合もあると思います。自分で受けた授業だけをもとにして

とです。この仕事に就いて、中高の保健体育科の担当者と話をして分

ったことは、小学校段階で体育が好き嫌いの二極化になって

いるということ。先生方は技能のレディネスをどのようにそるえるか、大変な思

米川

奈良県では、小学生の体育授業を担当する先生方に対して、各校一名以上参加の

参加してもらい、参加して楽しかったと思つてもらうことで、とてもいい循環になっていると

感じています。小学生の体育授業を担当している先生方にも任意参加を呼び

かけています。小学校では基本的に全ての教科を担当するため、専門教科は

細越

加えて、体育の授業について広く周知する取組も行なっています。初任者研修で必ず体育科

ので、先ほど三上先生がおっしゃったように、「参加してよかった」、

「お土産をもって帰れた」と感じてもらえるような研修内容にできるよう心がけて

います。有益な研修は、自校や知り合いの先生に共有していただける

綱島

何かそういう資料があったら欲しいですね。

米川

奈良県のホームページにいくつか掲載しています。また、子供用サイトがあり、子供向けの資料を掲載したり、関連情報へのリンクを貼り付けたりしています。さらに、先生対象の資料をアプリ内で共有しています。子供用サイトと先生にアプリ内で共有している資料は、「いいネットなら」のアカウント所持者のみが閲覧可能です。

大野

愛媛県の小体連はすごく熱心に研究に取り組まれていて、中心になつている先生方ご自身ももちろん勉強されていますし、若い先生方を地区別の小グループに分けて、三年サイクルで計画的に実践研究をしてくださっています。その実践における子供たちへのアプローチは、中学校、高校の先生が見てもすごく勉強になりますので、ありがたいと思っています。

また、国の事業を活用した体育専科配置校が六校あります。その中の二校が毎年公開授業を

しているのを互いに見合う機会

もあります。夏には中学校の先生を対象に、各校一名の悉皆研修も行いますし、実技研修であったり、授業を実際に見ていただいたりする研修を計画的に続けていくことで、他の学校でも活用できる、みんなが取り組める授業を作っていきたいと思っています。

細越

米川先生、先ほど話題になつたものを示していただいていますね。

投能力の向上を目指した取組例 ボール操作に慣れ親しむためのプログラム



米川

例えば、「奈良県の体力的課題はこれです」と、分析結果を先生方にお伝えし、課題解決のための有効な指導法に関する資料等を共有しています。資料は、体育科が専門ではない先生方もすぐに実践できるように、具体的でわかりやすい内容とするよう心がけています。

また、奈良県では、体力向上支援員（小学校教員）を配置し、域内の学校を巡回指導しています。一学期は、体力向上支援員がTTのT1として授業を行い、徐々に担任の先生とT1とT2を入れ替えて授業すること

で、先生方の体育科の指導力を向上させる取組を行なっています。域内の先生方にとっては実践を通して学ぶことができ、とても効果的だと考えています。

細越

お話を伺っていて、独自の取組や実践にもありますが、指導主事の皆さんは、やはり同じ方向を目指していることが伝わってきます。

そして学校として、研修会の

場で、公開授業として、先生方同士で広げていくことがとても大事だということも分かりました。口コミというのも、やはり強いパワーがありますよね。今一度、ご指導する際の重点、あるいはご苦労されているところへ戻りたいと思います。

米川

三つあります。一つ目は、指導要領や解説に示されている例示等を適正に理解していただけるように努めています。

例えばゴール型の授業において、小学校段階ではゴール型に共通する動きや基本的なボール操作を身に付けさせるべきなのに、競技性を追求するような指導を見ることがあります。そのため、訪問する際は、指導要領に示されたことを正しく理解していただけるように、指導要領や解説に書かれている内容を整理した資料を持参して説明するようにしています。

二つ目は、児童の実態に応じた指導であつたかということ

を常々考えてくださとお話しています。現在はインターネット

で多くの情報を容易に集めることができるようになってきました。しかしながら、どんなに優れたすばらしい実践例でも、自身の目の前の子供の実態に応じたものでなければ相応しくありません。

学校には系統性を考慮した年間指導計画があります。担任の先生が良い実践を取り入れることは素晴らしいことではありませんが、全体の計画から逸脱しないようによく考え、実態に応じたアレンジして組み込んでくださいます。

また「共生の視点」を大切にしながら、運動特性を踏まえて、子供たちにルールを工夫させることも重要です。みんなが納得できるルールを、みんなが探って創り上げるというのを大事にしてくださとお話しています。

三つ目は、皆さんからありました「指導と評価の一体化」です。指導したことを評価して、

その評価の結果によって、その後の指導を改善して実践し、再度評価するという、子供の学習改善や先生の指導改善に繋げるものです。意図して実践しているからこそ、その成果が子供たちの姿に表れてくるタイミングがあります。その姿を的確に捉え、きちんと計画的に評価することに意味があるということを常々お伝えしています。

先ほど申したとおり、学習評価は、指導したことがどの程度実現されたかを子供たちの学習の状況から読み取ると同時に、指導者の指導改善に繋げていくものでなければなりません。さらに、授業を進める中で子供の困り感を的確に捉え、子供自身で解決できるようにするため指導者は何ができるのかなど、いつも考えて指導改善に生かしていただきたいと思います。

三上

私は、なかなか授業を見に行けていないという状況があるので、体育研究会に入っていない

方が授業公開をしてくださった場合は、ひたすら感謝です。褒めまくっています。体育の授業を公開したら、県の三上に褒められるというくらいに褒めて、いい気分になってもらおうというも思っています。(笑い)

半面、体育の専門の方の授業に対しては厳しく見ていると思うことがあります。授業と同じで先生方の実態に合わせた指導を行っているつもりです。

体育を研究している先生が行った授業では、ボール運動の授業を見ることが多くて、それも単元の後半で、作戦や思考・判断を伴う活動が中心になります。しかし、その作戦は必要だったのかと感ずることも多々あります。本来は先生の指導や投げかけがとても大事だと思うのですが、それがありません。参考資料の動画を見ているだけの授業もあります。ボール運動をやれば子供たちは楽しい、でも体育の授業は何を学ぶ時間なのか、何を考える時間なのかという投げかけはやはり必要だと思ふのです。例えば、作戦を交

えたいというつぶやきがあったときに、それを大事にしたいわけです。何で変えたいと思ったのか、理由があるはずなので、問い直して深く探って、みんなの考えを出し合うことで次に生かされていくと思います。

先生方の取組に対して、一つ指導して、さらにステップアップしてもらえれば良いなと考えています。学習指導要領を踏まえながら、先生方にとって、少しの指導が次のステップになることを目指しています。

細越

先生方に一つ伺いたいことがあります。それはICTは何のために、どのように使うのがいいのかということですか。先生方がICTの使い方や活用の意義についてご指導されていること等、お話いただきたいと思ふいます。

三上

昔、自分がスキーを滑っていたときに、「膝が入っていないよ」と言われたことがありまし

た。でも、自分ではそうした状況がよく分かっています。自分としてはすごく気持ちよく格好よく滑っているはずなのに、他の人が見ると違っていたという状況に困惑しました。自分がどういう状態で運動していたかを知ることがとても大事なのかなと、そのとき感じました。

ICTの活用については、使用方の良し悪しを判断したり、質を高めていったりすることが大切ではないかと思ふいます。そのためにも、こうした方がいいのではないかといった確かなアドバイスができるようになりたいと思ふっています。

最近私が見た数少ない授業のことですが、ICTによって運動時間が少なくなっているという印象があります。でもそれは、今、ICTをたくさん使っている時期だけで、その経

験から来年、再来年になれば、もっと使い方が精査されてよくなっているのかもしれない。今は、ICTを使うことに過剰にとらわれ過ぎているところが

あると感じていますが、より効果的な使用法を求めるといには必要なステップだと思ふいます。どちらにしろ、こちらの指導の在り方を考え、より効果的な使い方について指導や助言をしていかなければいけないと思ふっています。

大野

ICTについては、まず自身を客観的に見ることに、変容や比較の確認ができることが大事だと思ふいます。そして、仲間と思いを共有できたりとか、自分自身の思考の流れをデータとして蓄積していったりするのが、ICTのよさだと思ふいました。

研修会や公開授業の指導助言に行かせていただくと、先ほど三上先生もおっしゃったように、参観された先生方から、ICTを活用すると、運動量が減ってしまうというデメリットのお話

が出来ます。使っている間は動きがストップしてしまうので、どうしても運動量の確保が難しいと思ふのですが、その時間、ICTを活用して子供たちは思

考をしています。その分の運動量は別のところで確保するとうように、単元を通して運動量がしっかりと確保できれば、子供たちにとってはマイナスではないので、単元を通した指導計画であったり、一時間の中の活用場面であったりとか、単に運動量が多い少ないにとらわれずに授業を組み立てていってくださいとお話しています。

米川

今、大野先生がおっしゃったことを奈良県でも進めています。本県はICTの導入が早かったです。昨年からは、スポーツ庁の「令和の日本型学校体育構築支援事業」の「GIGAスクール環境下における体育授業の充実」事業にも取り組んでいます。本県では、令和二年の導入当初、得意な先生と苦手な先生との間で大きな差が生まれました。そのことに危機感を抱き、はじめは、「体育ではまず得意な人に任せましょう。そして、得意な人がやってよかったと言って、いることをまねしてください」

とお伝えしました。使わないことには、成果や課題が見えないだけでなく、先生の端末活用のスキルも向上しないので、まず取り組んでみてくださいと伝え続けました。

二年目は、ICT端末の使い方が精査・精選されている時期になってきたので、やみくもに活用するのではなく、効果的に使ってくださいということをお伝えしました。

その頃になると、子供のほうがICT端末の操作スキルが高いわけです。目的を達成することが大事ですから、子供たちにお願いをしてみてくださいという視点もいいますよということになります。

今年は三年目ですが、もって質を高めていきたいと考えています。ICT端末を使うと、自分が運動している姿の撮影、繰り返しやスローでの再生ができます。大事になるのは、目的をはっきりさせることだと考えます。何を見せたいのか、何に気付けたいのかによって使い方が変わるからです。ICT端末

を使う際、子供たちが思考できるようにしてくださいとお伝えしています。何も考える必要がなければ、先ほど三上先生がおっしゃったように眺めているだけになってしまう。必ず視点や目的をはっきりさせて、それが子供たちに伝わる言い方で伝えてくださいとお願いしています。

例えば、動画を撮る時間を（十秒以内等）決めていただくようにお伝えしています。そして、見るポイントや気付かせたいこと等の目的を明確にしてから撮らせてくださいとお話しています。そうすることで、撮る場所やタイミングが決まります。

これらの点を先生方が常に意識することで、子供たちにも染み込んでいき、自然と効果的な実践ができるようになりますと期待しています。

また、クラウド上でのやり取りで、考えや意見（付箋機能等を使って）をリアルタイムで共有できることは利点であると考えています。そして、家に持ち帰れること

もとても良いことだと思えます。これまで、他教科では単元テストなどによっておうちの方にお子さんの学習状況を分かっていただけなのですが、体育については伝わりにくい部分がありました。ICTによって、子供たちの学びの足跡、動画や思考の変容・流れを、家庭でも見たいだいて、頑張っているんだねと励ましてもらえるようになりました。

さらにもう一つ利点があります。本来は、四十五分の時間内に振り返りを共有するのが一番良いと考えます。しかし、自分の気持ちや考えを言葉にして表現するのに時間が必要な子にとっては、端末があることで、おうちに帰ってからもう一度自分の学習を振り返って、自分の考えを書く時間を確保できるようになりました。それを基に次の時間に発表したり、先生に提出したりして、みんなに共有することができるようになったのは、ICTの大きなメリットだと思います。

あとは、ICTを活用することで、先生の説明を短くしたり、逆に運動時間を確保したりする、そんな使い方もできると思います。

綱島

今、米川先生おっしゃったように、子供たちにとって本当に必要かどうか、必要感をもって使うことが大事かと思えます。高校生であれば、使うかどうかも含めて生徒が判断すればいいと思うんですね。文具の一部のように、自分たちが課題解決をするために映像を撮って動きを見ようかとか、お手本になる動画を検索してみようかなど、必要に応じて使うことが望ましいと考えます。教科書に蛍光ペ

ンでマーカーするぐらいの感覚でICTの端末を使えるようになると効果的ではないでしょうか。

あとは、ICTを活用することで、先生の説明を短くしたり、逆に運動時間を確保したりする、そんな使い方もできると思います。

細越

次の話題として、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」などのワードが出

できていますが、これにもかかわって、体育における発問についてお話をいただきたいです。発問はこれまであまり強調されてこなかった面があるように思いますが、最近では「どうやったから、そうなったの」というように、子供達に積極的に問いかける先生も増えてきています。現行の学習指導要領になつてそうした変容があるのか、先生方の実感をお聞きしたいと思います。

大野

振り返りの時間を充実させ、深い学びにつなげることができるよう先生方をお願いしているところです。

「授業の最後に振り返りの時間を取っていますか」という質問に対して、先生方はその時間を取っていると回答しています。子供たちは振り返りの時間を取れていないと感じているという結果が出ています。先生方と子供たちの認識に差があったことが愛媛県の課題だと思っていて、そこから改めて研修会等でお願ひするようになりました。

授業の最後に子供たちが振り返りの内容を発表したときに、こんなことができましたという発言に対して、「なぜできるようになったんだろう」「前回の自分と今回の自分で変わったところはどこだろう」と問うことで、理由の裏付けができたり、学びを整理することができたりすると思います。こうした積み重ねにより、授業改善の視点が明確になり、子供たちの深い学びにつながっているなと感じています。

細越

最後に、学校の先生方に向けて、よりよい授業実践に向けてのメッセージと、指導主事としてこれからこのようなことに取り組みてみたいというお話をぜひお願いします。

三上

先ほどの質問に関してですが今回の学習指導要領や評価で「思考・判断・表現」の側面が重視されることで、運動が得意な子だけでなく、みんなで見

を出し合つて学びを深めていくというところが、とてもいいな、すごく変わってきたなと思っています。

先生方へのメッセージとしては、授業を楽しんでほしいです。子供たちとの授業ですから、どうしたら子供たちが笑顔で取り組むことができるのか、計画を楽しみながら練って、どうしたら、その計画を実践できるかを考えてほしいです。その中に学習指導要領のねらいをしっかりと組み込んでいただきたいと思えます。

指導主事としては、小学校から高校の十二年間や、幼稚園、保育園と小学校のつながりがとても大事なキーワードになっている気がします。小学校の授業が充実すれば、中学校、高校にも波及していくのではないかと思います。小学校で、運動好きの土台を作つて、中学校、高校に送り出していく。学習指導要領に示されたものに平均的に取り組んで中学校、高校に進んでいければ、豊かなスポーツライフにつながるのではないかと

と考えます。そういう視点を大事にして、青森県の小学校体育の裾野を広げていきたいと思っています。

綱島

先生方へのメッセージとしては、私も三上先生と同じなんです、やはり先生方も楽しんで授業してほしいと思います。先生も一緒になつて子供たちと笑顔で楽しむ、そんな実践を通して体育好き、スポーツ好きの子供を一人でも多く、体育の授業を通じて増やしていけたらいいと思っています。

指導主事としては、やれることとやれないことがあります、先生方が体育の授業をする上でヒントとなるような資料とか映像とか、そういうものを増やしていきたいと思っています。我々ももつとICTをうまく活用して、現場の先生が便利に使えるような、そんなものを提供したいと考えています。高校の立場でもう一つ。本日は体育の授業についての話が中心でしたが、科目の保健の授業

改善も課題としてあるので、そのあたりも取り組んでいきたいと思っています。

米川

私からのメッセージは、ICT端末を使うことでより学びが充実して深まるということから、ICT端末を有効に活用してほしいということです。

各自自治体では、小学校から高校まで最長十二年間アカウントが付与されています。そのおかげで、高校三年生になったときも、自分の小学校一年生のときの姿を振り返って見ることができまます。これはすばらしいことだと思つています。自分の成長の様子を確かめることで運動有能感を高めたり運動の良さを実感したりして、豊かなスポーツライフにつながっていくと考えているので、そういう利点を生かしてほしいなと思つています。そして、先生方には楽しんで授業をしていただけたらいいなと思つていると同時に、全ての先生方が一丸となつて、子供たちが生涯にわたつて心身の健康

を保持・増進できるように取り組んでいく、実現していくという気持ちをもってほしいと思います。

校種間・学校間のつながりや、他府県の先生方との交流等、様々なつながりを大切にして、困ったときに相談したり、良い情報を共有したりすることができたらと考えています。

私自身、指導主事として、先生方のために、その先にいる子供たちのために、今自分に何が

できるのか、自分に足りないものは何なのかを常に考えながら、少しずつでも精進していきたいと思っています。

大野

先生方がおっしゃったキーワードと重なりますが、私も県内の先生方にお伝えしたいのは、楽しいというキーワードです。それは、体育が得意な子も苦手な子も、授業が終わった時に、運動は苦手だけれども、体育は楽しかったとか、今日はうまくいかなかったけれども次の授業が楽しみだというように、子供

たちが最後には楽しいと思える授業づくりの仕掛けを、先生方も楽しみながら組み立てていただきたいと思います。

そして指導主事としては、せっかくだいろいろな授業を見せていただき、様々な校種の先生方のアイデアを見せていただく機会が多いので、その先生方のアイデアや工夫の跡を県内に広め、実践につなげていく役割を果たしていきたいと感じています。

細越

先生方のお話を伺っていて共通していたのは、子供たちは小学校、あるいはもつと前の幼児期から高等学校・大学まで、彼らが成長していく過程の中で、運動とスポーツに関わっていくということでした。保健の学習も含めて、どのようにつながりをもっていくのかを先生方は大事にしていらっしゃる。また一方で、先生方同士もつながってほしいというお話の中で、それをつなぐ役割が指導主事ということもありました。みんなが体

育・保健体育の内容を媒介にして、楽しみながらつながっているような、そんな取組が、これから各地で、また全国大会などを通じて広がっていくのが大事なのかなと感じました。

吉原

長時間にわたりましたありがとうございます。貴重なお話を伺いながら、ご苦労の数々、現場、子供たち、先生方ために熱心に取り組まれている様子が伝わってまいりました。心から敬意を表したいと思います。

指導主事の立場で考えますと、一〇〇%の実践を目指すのですが、実際には一〇〇%は難しく、それでも高い意識の先生方、一生懸命頑張る取り組みを柱に、先生方を柱にして、少しずつでも波が広がっていくように伝わることで、子供たちにとって楽しい、幸せな体育の授業、保健体育の授業ができるようになったらいいなと思います。そのようなことを

先生方の素晴らしい実践、お考えをお聞きしながら考えておりました。

これを持ちまして、今回の座談会を終えさせていただきます。本当に楽しい、貴重なお話の数々、ありがとうございます。ご多忙の日々ですが、健康に留意されますますご活躍ください。

全国学校体育研究大会 近年度開催地のご案内

第62回全国学校体育研究大会 (令和5年度)	開催地	山形県	令和5年11月1日・2日
第63回全国学校体育研究大会 (令和6年度)	開催地	山口県	令和6年11月14日・15日
第64回全国学校体育研究大会 (令和7年度)	開催地	北海道	令和7年10月30日・31日
第65回全国学校体育研究大会 (令和8年度)	開催地	新潟県	
第66回全国学校体育研究大会 (令和9年度)	開催地	鳥取県	

仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう
 体育授業の創造

外村 浩二 可見市立今渡北小学校（岐阜県）

【授業づくりのポイント】

○体育授業の約束を子どもたちと確認し、徹底する。

- ・ハンドサイン3種類の共有。(集合・整列・注目) ⇒ **学習規律=安心感**
- ・移動はかけ足、素早く行動する。 ⇒ **活動時間・運動量の確保**
- ・できたことではなく、挑戦したことを褒める。 ⇒ **やる気をもたせる**
- ・個々の成長に対して大いに褒める。 ⇒ **自信をもたせる**
- ・仲間の成長をともに喜び姿を褒める。 ⇒ **楽しい環境をつくる**



○子どもたちの実態を正しく把握する。

- ・子どもたちができること、苦手なことは何か。
- ・計画した活動にかかる時間はどれくらいか。
- ・その運動が苦手な子に対する具体的な支援の方法を用意する。

○どのような教材が子どもたちにとって魅力的で最適かを考慮する。

- ・教材、教具は何を準備、使用するべきか。
- ・場の設定はどうするか。
(例：コートやボールの大きさ、数、配置、活動内容など)
- ・ルールの工夫をどうするか。

○単元を通して指導過程の工夫と課題設定の在り方を考える。

- ・運動の特性を楽しみながら技能を身に付けていくことができる流れか。
- ・発達段階に応じた目標とする技能の系統表を作成する。
- ・単元を通しての課題と毎時間の課題設定を計画する。

【単元の計画】

【例-技】 攻撃側：守備の動きから逃れやすい打ち方向や向きを工夫して打ち、全力で走ってより先の塁に進むゲームをすることが出来る。
 守備側：ボールの動きを予測して捕球したり、ランナーの動きに応じて返球したりしてランナーの進塁を止めるゲームをすることが出来る。
 【例-利-興】 攻撃側：守備の方向を打つ方向を工夫したり、捕球方向や守備の動きに応じて打つ塁を判断したりしている。
 守備側：打球の方向やランナーの動きに応じてアウトにする場面を判断し、素早く声をかけたり捕球したりしている。
 【具体的な学習】 ゲームを通じて、ルールを守って自分たちが役割を分担してゲームをしたり、チームでアドバイスや励ましの声をかけたりしながらプレーしようとしている。

ねらいとする点	学習活動	教員の役割・援助
1. ○「タイマーボール」の学習の目的を明確にし、共通して身につけることができる。 ○ゲームで高まっているため、必ず自分の役割を学ぶようにしている。	○单元の学習と1時間の学習の両方を知って、既習をもつことができる。 ・单元を見直し、めどを書き確認する。 ・グループ構成（1チーム5〜6人×6チーム） ・役割の割り振り（投手、捕手、バッテイング、野手） ・ゲームのルールや基本のルール、1時間の学習の目的を知る。 ・グループの持ち方、カードの扱い、役割を知る。	○練習や試合などを通じて、ゲームの特性やめどを身につけさせる。 ○学習に使用する道具ややり方を示し、学習意欲を高める。 ○約束やルールを説明し、実行のルールを指示して、めどを身につけて練習する。
2. ○ゲーム内で動きながら、「ワウアップタイム」に取組むことができる。 ○成長のよさを褒め、声をかけ合って安全に活動しながら活動に取り組もうとしている。	○「ワウアップタイム」 ①2人キャッチボール・2人1組での正しい姿勢でキャッチボール ②コロコロキャッチ・2人1組でコロコロ投げ合い、ボールの正面に両足を入れて捕球する。 ③バウンドキャッチ・2人1組で一方がボールを投げつけてボールの落下点に立寄り、捕球する。 ④ローテーションバッティング・「打つ」→「捕る」→「投げる」をローテーションしながら行う。 ⑤ベースランニング・進塁を止さないように進塁を繰り返す。	○成長や基本的な動きが大きいことを褒め、真面目に「ワウアップタイム」に取り組ませる。 ○「タイム」「すごい」「ドンマイ」などの励ましの言葉やアドバイスをかけながら、特徴を認識した活動ができるように支援する。
3. ○打ち方や捕り方のポイントを確認して、投げたりボール（1点）を行い、ベースボールの動きが分かるように練習しようとしている。 ○守備やゲームのルールを守り、めどよく活動しようとしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会・グループ活動 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
4. ○「ワウアップタイム」(3点)を通じて、守備の動きを見てもらって打ち、一つで前の塁に進塁しようとするゲームができる。 ○アウトゾーンにボールをすばやく運ぶために声をかけたり、守備の動きを見たりしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○守備の動きを確認する。 ・構えの姿勢（足・膝・手） ・捕球姿勢（肘・足） ・立ち位置 ・投げの姿勢 ○次の動きを確認して練習させる。 ・課題に応じて一生懸命に取り組む。 ・目標に向かって頑張ろうとする。 ・マナーを守ってゲームをする。 ・安全に気を付けて取り組ませる。 ・練習や試合でアドバイスや励ましの言葉をかけたり、進歩や成長を認めたり、進歩を促す。 ・練習や試合でアドバイスや励ましの言葉をかけたり、進歩や成長を認めたり、進歩を促す。
5. ○バッティングの練習の仕方を、タブレットで確認し、実際にスイングしたり、打球の弾きを確認したりすることができる。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
6. ○ペアチームでの練習。 ○ベースボールのルールを確認し、投げたアウトゾーンへ素早く返球し、失点を防ぐことができる。 ○守備の動きや捕球の仕方についてアドバイスの声をかけたりしている。 ○自分のチームの動きを確認するために、投げたことを見せ合おうとしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
7. ○他チームとのゲーム（準備したりリレー） ○守備の動きや捕球の仕方について打ち、全力で走ってより先の塁に進むゲームである。 ○守備の動きを見てもらって打つところをアドバイスしたり、進歩やアウトにならないように声をかけたりしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
8. ○ペアチームでの練習。 ○自分の打ち方を確認し、進歩や成長を確認したり、進歩を促すことができる。 ○守備の動きや捕球の仕方についてアドバイスの声をかけたりしている。 ○自分のチームの動きを確認するために、投げたことを見せ合おうとしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
9. ○ペアチームでの練習。 ○自分の打ち方を確認し、進歩や成長を確認したり、進歩を促すことができる。 ○守備の動きや捕球の仕方についてアドバイスの声をかけたりしている。 ○自分のチームの動きを確認するために、投げたことを見せ合おうとしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
10. ○ペアチームでの練習。 ○自分の打ち方を確認し、進歩や成長を確認したり、進歩を促すことができる。 ○守備の動きや捕球の仕方についてアドバイスの声をかけたりしている。 ○自分のチームの動きを確認するために、投げたことを見せ合おうとしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。
11. ○ペアチームでの練習。 ○自分の打ち方を確認し、進歩や成長を確認したり、進歩を促すことができる。 ○守備の動きや捕球の仕方についてアドバイスの声をかけたりしている。 ○自分のチームの動きを確認するために、投げたことを見せ合おうとしている。	【1時間の学習】 1.準備・ベースラン・準備体操 2.ワウアップタイム 3.全体練習会 4.前中ゲーム 5.作戦タイム（作戦の共有） 6.後半ゲーム 7.振り返り 8.グループ活動会・全体練習会 9.片付け	○練習や試合などを通じて、指導ポイントを確認した練習ができるようにさせる。 ○うまく打てない子への指導。 ・打ち方、捕球、キャッチング、投げ方、打点、イチ・ニ・サンの声、目線など。 ○必要に応じてゲームを止めて、動き方を考えさせた練習を取り組ませる。

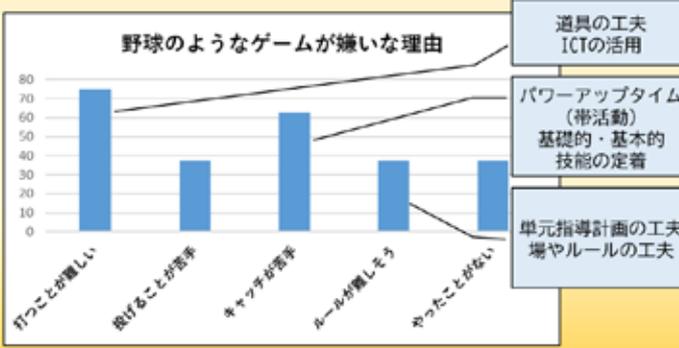
<ワーアップタイム>
単元を通して行う基本的技能の習得や、ゲームに活きる動きの獲得を目的として単元を通して取り組む運動。

<ICTの活用>
タブレットを活用して客観的に自分の動きを確認したり、成長を視覚的に捉えたりする。

【単元での活用例】
・バッティングの様子を撮影
・記録をグラフにして見える化（エクセルを活用）

<2段階の展開>
前半はより簡易型のゲームを行い、課題を明確にすることで、解決のための課題設定の必要性を生み出す。
後半は次年度のベースボール型ゲームにつながるようにゲームの方法等を工夫していく。

【児童の実態把握と対応策】



【道具の工夫】



【コート配置】

- グラウンドの中央から放射状に3コートを作成
 - ⇒ 飛球方向の安全面確保
 - ⇒ 打者、打順待ちの子への指導と安全確保
 - ⇒ 集合・解散の利便性◎



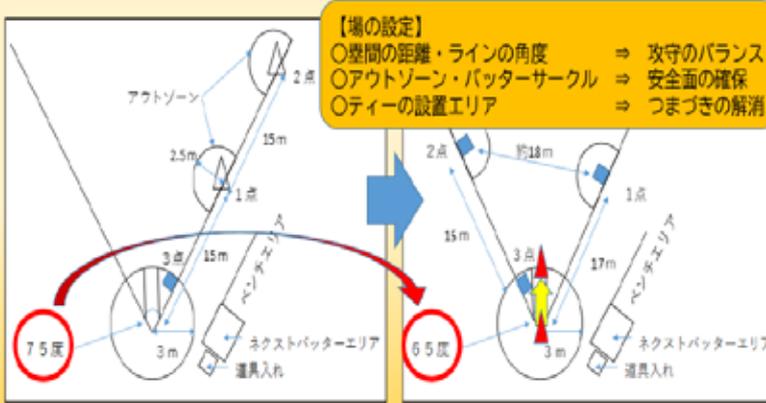
【単元指導計画】

- ①~② オリエンテーション・パワーアップタイムの練習
- ③~④ 展開Ⅰ：かけ抜け型のティーボール
- ⑤ バッティング技能向上 (ICT活用)
- ⑥~⑩ 展開Ⅱ：三角コート型のティーボール

【コート形状】

高学年の学習につなげることを考慮しつつ、子どもたちがルールを理解しやすくするため、2段階に分けてゲームを行う。

- ③~④ 展開Ⅰ：かけ抜け型のティーボール
- ⑥~⑩ 展開Ⅱ：三角コート型のティーボール



⑤ バッティング技能向上 (ICT活用)



展開Ⅱ：三角コート型 ペアチーム制の取組

	A		B		C		勝点	合計
	たに	丸ノース	アヲク	アヲク	アヲク	アヲク		
A たに	○	X	△	X	○	○	7	14
A 丸ノース		○	△	○	X	○	7	
B アヲク			○	○	△	△	10	18
B 丸ノース			○	○	△	△	8	
C アヲク					○	○	7	16
C 丸ノース					○	○	9	

- 【ペアチーム制のメリット】
- 勝ち点を共有して、互いに応援し合うことができる。
 - アドバイスや作戦のアイデアが増え、思考・判断を深めることができる。

- 【授業の流れ】
- ⑥ ペアチームで練習試合 ※ルールの理解
 - ⑦⑧ リーグ戦前半
 - ⑨ ペアチームで練習試合 ※作戦・教え合い
 - ⑩⑪ リーグ戦後半

児童の感想

これは最初は苦しかったけど、やりたくなかったけど、今は楽しくなりました。みんなと協力して、勝つことができました。これからも頑張ります。

「わかる・かかわる・できる」を一体化させた課題解決的な学習の実践（跳び箱運動）

中嶋 圭一郎

所属 埼玉県三郷市教育委員会
元三郷市立早稲田小学校（教諭）



「わかる・かかわる・できる」を一体化させた課題解決的な学習について

本稿で言う「わかる・かかわる・できる」を一体化させるとは、教師が意図し、相互に関連付けることである。器械運動の楽しさは、非日常的な感覚を伴う、「できるようになる楽しさ」だと考えている。「ああ、そういうことか」「こんな感じでやればできそうだ」と腑に落ちた「わかる」を大切にしながら、「できる」につなげることで、できるようになった時の喜びは倍増する。この「わかる」と「できる」をつなぐ大きな役割をしているのが「かかわる」である。小学校期において豊かな関わりを通じた運動体験は、運動の多様な楽しさを味わわせるとともに、豊かなスポーツライフの礎を築く意味で大変重要であると考えている。

【資料②】

学習過程

1	2	3	4	5	6	7	8
ディスカヴァリータイムⅠ（異質） （共通の課題を解決する時間）	ディスカヴァリータイムⅡ（等質） （個人の課題を解決する時間）						発表会（早稲田オリエンテーション）
パワーアップタイム （習得した技能を定着させる時間） ・どのような姿が「できた」になるか異質時に児童に示した	・課題は2～4時で指導した「膝が伸びているか」「腰を高く保っているか」の2つに絞った。 ・伸膝台上前転が連続できた子供は第5時に首はね跳び・腰はね跳びを示した。						
チャレンジタイム （本時の学習成果を確認する時間）	後半オリエンテーション			チャレンジタイム （本時の学習成果を確認する時間）			

【資料①】

時	本時のねらい	評価
1	学習の進め方を学び、安全に気を付けて協力して運動しよう。	態
2	伸膝台上前転と台上前転の違いを見付け、練習しよう。	知・技
3	膝をいつ伸ばせばよいか見付け、技を美しくしよう。	知・技
4	腰を高く保ち、技をもっと強固にしよう。	知・技
5	自己の課題を見付け、解決できる橋を築こう。	思・判・表
6	自分の課題の解決に向かって練習に取り組み技を上達させよう。	知・技
7	技が上手になるポイントや技のきばえを仲間と伝えよう。	思・判・表
8	自分史上最高の演技をし、早稲田オリエンテーションを美しくしよう。	態

第1時では、本単元で中心技となる伸膝台上前転を紹介するとともに、台上前転の技能の確認をした。また、第2時以降の学習過程を子供と相談しながら作成した。前半は運動のポイントやコツを学ぶ時間とし、後半は自己の課題解決や発展技等に取り組み、最後に学習発表会をすることを決めた。第2時、3時においては「膝を伸ばすこと」を、第4時は「腰を高く保つこと」を共通課題とした。後述する「課題解決サイクル」を用いながら技能のポイントやコツを見付けた。第5時は後半オリエンテーションと題し、今まで撮り溜めた動画から自己の課題（膝を伸ばすことか、腰を高く保つことか）を見付けるとともに、どのように課題を解決していくか（場の選び方やカードの使い方）を説明する時間とした。第6、7時は自己の課題解決のために単元前半の学習を生かしながら仲間と課題を解決できるようにした。「わかる」と「できる」をつなぐ課題解決的な学習を通して、器械運動における思考力、判断力、表現力等の育成につなげた。今回の実践でいう課題は「膝か腰」である。技能の課題を焦点化することで運動が苦手な子供も自己の課題を見付けやすく、活動に取り組みやすくなった。

課題解決サイクル

課題解決サイクル

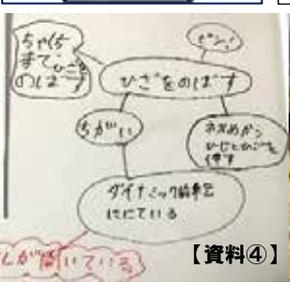
「よし！かれーふりかけ」

【資料③】



- ①予想：自分なりに問題の解決方法やゴール像（答え）を予想する。
- ②思考：「広げる」「しぼる」思考で仮の答えを導き出す。
- ③確認：予想や思考したことが本当に正しいか確認する（全体）
- ④練習：粘り強く、調整しながら練習をし、力を身に付ける。
- ⑤振り返り：「何ができるようになったか」の視点で振り返る。

思考したことは書いて残すようにし、【資料④】1時間の振り返りに活用できるようにした。運動が苦手な子供が運動のポイントやコツを仲間と見付け合うといった「かかわり」ができた。第2時の課題は「台上前転と伸膝台上前転の違いは何か」であった。「膝を伸ばすこと」に気付いた子供は跳び箱で練習を始める。一方で苦手な子供は、台上前転との違いは「わかった」が、跳び箱上ではできない。そこで、【資料⑦】のような場を準備し、このような場で膝が伸ばせていれば本時の課題は達成と認めた。【資料⑥】コツについては個人の感覚を大切にし、言語化、身体化することを支援した。また、この課題解決サイクルは他教科でも取り組み「学び方」に汎用性をもたせるようにした。



【資料④】



【資料⑥】

場の工夫



【資料⑦】

【資料⑦】の場は子供の実態に合わせ、マットを増減させるだけなので、準備が簡単であり、運動が苦手な子供にも大変好評だった。マットの幅と跳び箱の長さが同等なため、マットで自信をつけた子供は跳び箱にマットをかけた場に移動し、安定して行うことを目指していた。一方で、マットでできたからすぐ跳び箱に誘導するのはなく、「できる場」で十分に楽しむことも大事にした。また、回転後の着地に恐怖心を抱く子供が多かったため、マットに腰かけた状態から着地場面のみ切り取り練習することも効果的であった。子供の運動の楽しみを教師が見取ったり、対話をしたりしながら場や行う技を子供と相談するといった教師の「かかわる」姿勢も重要であると感じた。

①モデリング



【資料⑧】

②課題解決とポートフォリオ化



【資料⑨】

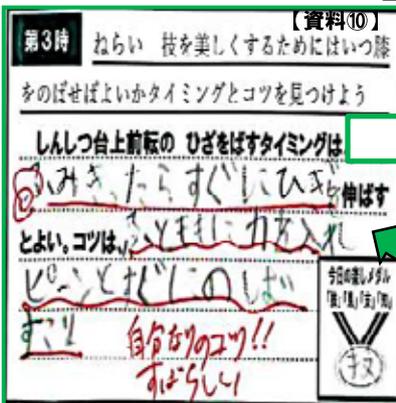
①モデリング

ICT機器の活用【資料⑧】により、前時の動きや学習の姿をヒントに本時の学習の方向性を子供と確認するとともに、良い動きについて称賛することもできる。さらに、どのような姿が粘り強く取り組む姿なのかや、自らの学びを調整しながら学ぶ姿とはどのような姿なのかを子供と共有することは、運動に意欲的でない子供にとって、目指す姿が明らかになり効果的であった。

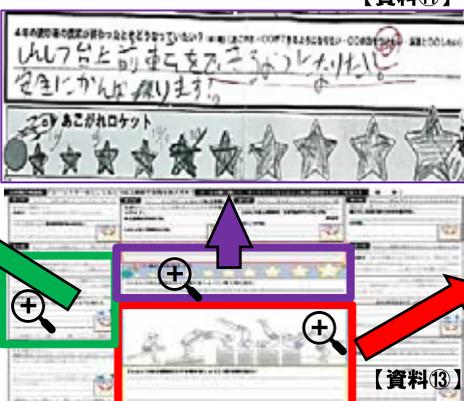
②課題発見とポートフォリオ化

前述した【資料①】「チャレンジタイム」において、タブレット端末を用い、本時の成果の確認と次時への課題発見につながるよう映像を撮り溜めた。【資料⑨】それらの映像は主に、第5時の後半オリエンテーション時の課題発見に役立てた。第4時まではタブレットの使用時間を制限したが、第5時以降は制限をしなかった。運動が苦手な子供も映像を指さしながら、アドバイスを仲間を送っている姿も多く見られ、「できないから教えられない」と助言に躊躇する子供が少なかった。また、一人一台端末になったことにより、自宅で自分の動きを確認して次の学習の見通しを立てたり、家族と学習の成果を共有したりすることができた。

【資料⑩】



【資料⑩】



【資料⑬】



【資料⑫】

この学習シートの強みは指導と評価の一体化を図りやすいところにある。特に、今まで多くの研究はなかった「教師の指導改善」を視点に入れた学習カードになっている。教師が1時間で学ばせたかったことのみ記入をさせることで【資料⑩】、1時間ごとの学びの積み重なりを俯瞰できるので、教師は指導した「実感」、児童は学んだ、成長した「実感」を味わえる。また、第1時と第8時（最終時）に運動のコツを記入させることで、【資料⑫】知識の伸びを実感できるようにした。運動のポイントとコツについては棲み分けをし、ポイントは「膝を伸ばす」こと、コツは膝を伸ばすために「太ももにギュッと力を入れる」や「つま先を下に下げる」といったように個人の感覚を大切にしたい。テスト的に知識量を測るのではなく、児童が学びの積み重なりや成長を実感することをねらった。【資料⑬】自分の理想とする姿まで今はどこまで達成したか☆に色を塗り、日付を記入するようにした。技能の高さに関係なく、「自分の理想」までどれだけ近づいたかを自己評価できたことにより、運動が苦手な子供も高い意欲を継続するのに役立つとともに、学習の進捗を教師が捉え、個人内評価するのに役立った。

運動の多様な
楽しみに気づく



【資料⑭】

黄色＝「技」(する)、緑色＝「見」(見る)、赤色＝「支」(支える)、青色＝「知」(知る)から本時感じた楽しさを選ばせ、シールの色分けを行い、蓄積していった。単元の振り返りをする際、「運動にはたくさんの楽しみ方があったね」と運動への多様な楽しみ方を価値づけるのに役立てた。優れた運動への見方・考え方があれば全体で共有し、それ以外は個人内評価に留めた。

【授業の詳細】



「わかる・かかわる・できる」を意図的に一体化させた課題解決的な学習を通し、子供たちは多様な運動の楽しみ方を味わうことができた。授業で味わう楽しさが子供たちの豊かなスポーツライフの礎を形成していく。今後も変化の激しい時代を逞しく生きていく子供たちに自らの課題を解決していく力を、体育授業を通して育成していきたい。

(なかじま けいいちろう)

授業づくりのポイント

依然として児童生徒の体力の低い状況は危惧されており、体力・運動能力を維持向上させるために学校に求められる役割も大きくなっている。児童が主体的に運動に取り組み、運動する喜びを実感できれば、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成につながると考え、以下の点を重視し授業づくりを行っている。

- ① 運動の楽しさや喜び、その運動の特性を味わうことができるようにする。
- ② 段階的な単元構成（スモールステップ）でその運動の基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。（わかる・できる喜び）
- ③ 課題解決のために仲間と対話し、学び合うことができるようにする。（かかわる・つながる喜び）
- ④ 自己の課題や解決のためのポイントを言語化させ、思考と体の動かし方をつながられるようにする。（生かす・続ける喜び）

具体的には、大きな手立てを2つ考え、本実践を行った。なお、本校は全校児童15名の極小規模校であり、異学年合同での体育の授業を行っている。

- 手立て1 全員が学習の見通しをもち、意欲が高まる単元構成や一単位時間の工夫
 手立て2 全員が関わり合い、学び合い、自分自身でも成果を認められる場の設定

授業実践紹介

主体的に運動に取り組み、運動する喜びを
 実感できる児童の育成
 ～小規模校でのソフトバレーボールの指導を事例に～

吉峯 真太郎 奄美市立手花部小学校（鹿児島県）

単元の評価規準と単元構成の工夫

第2時～第6時

- ・ 体の動かし方や動きのポイントを知る。
- ・ 身に付ける方や遊び方をスモールステップで習得していく。
- ・ 友達と学び合うことで更に学習内容を深める。

終末 単元のまとめ

- ・ これまでの学習の成果を生かしてゴールの活動に取り組む。
- ・ 単元全体を振り返る。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	【3・4年生】 ①ソフトバレーボールの打ち方について、書いたり、書いたりしている。 ②アンダーハンドパスやオーバーハンドパスでボールを打てることができる。 ③ボールの方向に体を向けることができる。 ④ボールの落下点を移動して、ボールを操作することができる。	【3・4年生】 ①ウチラーが鋭くように役割を工夫している。 ②役割を譲り受けた攻め方、守り方の作戦を導んでいる。 ③攻めるときや守るときは、動き方の工夫を友達に伝えたり、書いたりしている。	【3・4年生】 ①練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 ②役割を守り、誰とでも仲良くしようとしている。 ③勝敗を受け入れようとしている。 ④友達や考えを認めようとしている。 ⑤場や用具の安全に気を付けている。
	【5・6年生】 ①ソフトバレーボールの打ち方について、書いたり、書いたりしている。 ②アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブでボールを打ったところにはじくことができる。 ③アタックやフェイントを使って相手コートにボールを打つことができる。 ④ボールの方向に体を向けたら、ボールの落下点に早く移動し、安定した状態でボールを操作したりすることができる。	【5・6年生】 ①ソフトバレーボールのルールに近づけるようには、段階的にルールを難しく工夫している。 ②チームの作戦をつかみ、それに応じて攻撃と守備の作戦を考えたり、譲り受けている。 ③チームの攻め方や守り方、作戦の良かたところやアドバイスなどを相手に伝えたり、書いたりしている。	【5・6年生】 ①練習やゲームに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールを守りながら進んで進もうとしている。 ③勝敗を受け入れようとしている。 ④仲間や考えや意見を認めようとしている。 ⑤場や用具の安全に気を付けている。

時	単元 指導と評価の計画（全7時間）						
	1	2	3	4	5	6	7
	1. チームで準備運動 2. 慣れの運動 3. 全体のめあてを確認し、個人のめあてをたてる。						
	【オリエンテーション】 ソフトバレーボールの学習の進め方を知ろう。 1. 準備運動（全時） 2. チームに分かれる。 3. 慣れの運動 4. 慣れのゲーム （ゲームを通して、感じたことや疑問を解消する。） 5. 単元のゴールを確認する。学習のめあてを確認する。	ボールを上手にコントロールするには、どうすればよいのでしょうか。 4. チーム練習 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス	ボールを上手にコントロールするには、どうすればよいのでしょうか。 4. チーム練習 2・4時 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス 5・6時 ・アタック・サーブ	ゲームで勝つためには、どんな攻め方や守り方をすればよいのでしょうか。 4. チーム練習 守り方 ・前より上はオーバー ・キャッチに返す ・ネットから返されたら安全に返球	攻め方 ・フェイント ・強くたたきつける ・ネットからの返球 コートの手返しへ	4. チーム練習 学習した攻め方・守り方を確認して、組み合わせで練習する。	4. チーム練習 学習した攻め方・守り方を確認して、組み合わせで練習する。
	6. 練習カード、作戦カードの使い方を教える。	5. ニュゲーム1 6. ニュゲーム2	5. ニュゲーム1 6. ニュゲーム2	5. ゲーム 試合時間5分 作戦タイム 1分	5. ゲーム 試合時間4分 作戦タイム 1分	5. ゲーム 試合時間4分 作戦タイム 1分	5. ゲーム ・先生チームや保護者チームと対戦する。
	7. 整理運動	7. 整理運動 8. まとめと振り返り					7. 整理運動
	8. 片付け	8. 片付け	8. 片付け	8. 片付け	8. 片付け	8. 片付け	8. 片付け
単元評価	観察・カード ①・②・③・④	観察・カード ①・②・③・④	観察・カード ①	観察 カード ①	観察・カード ②・③	観察・カード ②・③	観察・カード ②・③・④・⑤

第1時

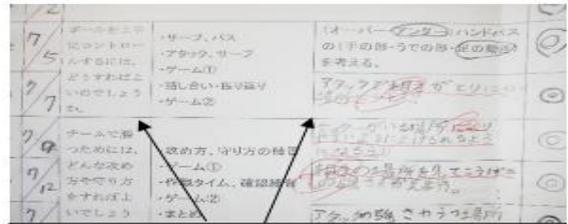
オリエンテーション

- ・ 慣れの運動の進め方を知る。
- ・ 試しの競技を行う。
- ・ 単元の学習の見通しをもつ。
- ・ 単元のゴールを確認する。
- ・ 体育カードの使い方を知る。

実践の様子

《一単位時間の学習過程の共通理解と、めあてとまとめの言語化》

過程	主な学習活動	○指導上の留意点
つかひ・見通す	1 準備運動と慣れの運動を行う。 2 本時のめあてについて話し合い、個人のめあてをたてる。	○ 単元や本時に関わる基本的な動きを定着させるための慣れの運動を行う。 ○ 本時で学習することを踏まえて個人のめあてを考えさせる。
試す・深める	3 めあて達成のための練習をする。	○ 体育カードへの記入は時間があからぬように、各学年の発達段階に応じて工夫する。 ○ T1・T2・ゲストティーチャーなど役割を分担し指導する。 ○ タブレットなどを用いて、自分やチームメイトの動き方を確認し、学び合いを促しながら向上させる。
まとめる	4 練習を生かして実践と学び合いを繰り返す。 5 整理運動をする。 6 学習のまとめをする。 7 本時の学習をカードに記入し、振り返る。	○ 本時のめあてと個人のめあてを踏まえて、良い動きを称賛する。 ○ 本時のめあてに対応したまとめを全体で行う。 ○ 体育カードに本時の振り返りを書かせ、次時への見通しをもたせる。



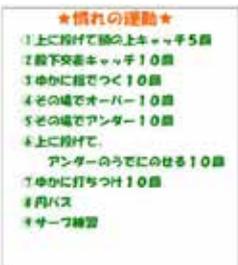
全体のめあてと、自分のめあてを確認できる。学年や技能に応じて選択式のカードも用意した。



【一単位時間の進め方】

《慣れの運動とルールの工夫》

基本的な技能の定着・向上をねらった慣れの運動



【慣れの運動の進め方】



【慣れの運動④ オーバーハンドパス】

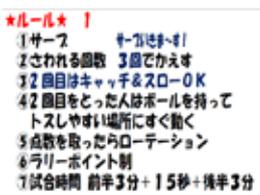


【慣れの運動⑤ アンダーハンドパス】

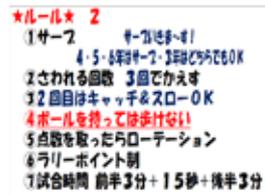


【慣れの運動⑨ サーブ練習】

全員が楽しめるためのルールの改善



【第1～2時でのルール】



【第3～5時でのルール】

【特別ルール】

- ・1チーム3人で3人全員がボールに触れて返球する。
- ・ワンバウンドまでOK！！
- ・単元の前半は、セッターがボールをキャッチして、セッターポジションまで走って移動できる。後半は、セッターはボールキャッチ後に移動できない。

《学び合いの場の設定》



【別チームの児童との学び合い】



【チーム内での学び合い】



【タブレットを用いた作戦カード】



【体育カードを用いた学び合い】

第六十一回 全国学校体育研究大会 滋賀大会開催を終えて

滋賀大会実行委員会 会長 野村 智洋



様々な方式で開催いただきました。滋賀大会では、これまで大会を支えてこられた皆様の学校体育への熱き思いを受け継ぎ、感染症対策を講じながら準備を進めてまいりました。

このコロナ禍での対応のように、予測が難しいこれからの時代を生きる子供たちは、答えのない問いにどう立ち向かうのか。目の前の事象から解決すべき課題を発見し、主体的に考え、他者と協働して議論し、納得解を生み出す力が一層強く求められています。これに向け、新学習指導要領では、児童・生徒が身に付けるべき資質・能力を三つの柱で整理し、その内容の改善が図られました。加えて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが示されました。そして、令和四年度は、いよいよ全ての

校園種で学習指導要領が全面実施される年を迎えました。本大会では、大会主題を「豊かなスポーツライフの実現を目指す」こととした。子供たちの発達段階に応じた系統的な体育・保健体育学習の充実」と設定し、これま

での本県における研究成果を基に、三つの資質・能力を子供たちが意欲的に身に付けようとする保育、授業の在り方と、カリキュラム・マネジメントの視点から、各校園の指導内容を系統的に捉え、学校園段階のつながりを整理・確認し、目指すべき体育・保健体育学習の姿を追究してまいりました。

大会一日目の大津市民会館で行われました。基調報告では、研究主題に対する滋賀県での研究成果と課題、各分科会の研究視点について報告しました。行政説明では、スポーツ庁スポーツ総括官 大西啓介氏より「運動部活動の地域移行と地域スポーツの振興について」最新の情報を説明いただきました。解説では、スポーツ庁政策課 横嶋剛氏より「これからの体育・保健体育学習に求められるもの」と題し、社会情勢の変化とスポーツ基本計画を踏まえた学習指導要領とこれからの体育・保健体育学習に求められるものを解説いただきました。

母なる湖・琵琶湖に流れ込む河川の源である近江の山々が、鮮やかに色づき、湖の青と美しく調和する季節に、豊かな自然と歴史が息づく滋賀において、全国から千百名を超える学校体育・スポーツ関係者の皆様にご

全体会の最後を飾る特別講演では、中京大学教授 高橋繁浩氏に、「豊かなスポーツライフの実現に向けて」と題して講演していただきました。高橋氏の少年期からメダリストを経て現在に至られるまでのご経験と三人の恩師とのお話を伺い、教員としての役割と責務について改めて襟を正しました。

滋賀大会を通じて、熱く研究協議いただき、ご参会の皆様から貴重なご示唆をいただきました。今回頂戴した貴重な機会が、湖面に落ちた一滴の雫の水の輪が湖面全体に伝わっていくように、滋賀県全体へ全国へと広がっていきますように、大会レガシーとしてつなげてまいりたいと考えております。どうか皆様には、引き続きご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

終わりになりましたが、本大会の開催にあたりご指導・ご助言を賜りましたスポーツ庁、公益財団法人日本学校体育研究連合会の皆様をはじめ指導助言者の皆様方、前年度開催県の愛媛大会実行委員会及び先催県の皆様、滋賀大会を支えていただきました。今年度の山形大会のご盛會と

学校体育研究大会滋賀大会を開催できましたことを、実行委員会一同、心より厚くお礼申し上げます。また、この度、表彰を受けられました学校並びに体育指導者の皆様に、心よりお祝い申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響で、近年はこの全国大会も参加形式での開催が叶いませんでした。しかし、そのような未曾有の状況の中、関係者の皆様のご尽力により、工夫を凝らした

今年度の山形大会のご盛會と体育・保健体育学習の更なる発展をご祈念申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

大会二日目は、幼稚園一園、小学校四校、中学校三校、高等学校二校、特別支援学校一校の計十一校で、公開保育・授業、研究発表・研究協議を行いました。いずれの会場でも、滋賀の

子を通して、熱く研究協議いただき、ご参会の皆様から貴重なご示唆をいただきました。今回頂戴した貴重な機会が、湖面に落ちた一滴の雫の水の輪が湖面全体に伝わっていくように、滋賀県全体へ全国へと広がっていきますように、大会レガシーとしてつなげてまいりたいと考えております。どうか皆様には、引き続きご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

母なる湖・琵琶湖に流れ込む河川の源である近江の山々が、鮮やかに色づき、湖の青と美しく調和する季節に、豊かな自然と歴史が息づく滋賀において、全国から千百名を超える学校体育・スポーツ関係者の皆様にご

全体会の最後を飾る特別講演では、中京大学教授 高橋繁浩氏に、「豊かなスポーツライフの実現に向けて」と題して講演していただきました。高橋氏の少年期からメダリストを経て現在に至られるまでのご経験と三人の恩師とのお話を伺い、教員としての役割と責務について改めて襟を正しました。

終わりになりましたが、本大会の開催にあたりご指導・ご助言を賜りましたスポーツ庁、公益財団法人日本学校体育研究連合会の皆様をはじめ指導助言者の皆様方、前年度開催県の愛媛大会実行委員会及び先催県の皆様、滋賀大会を支えていただきました。今年度の山形大会のご盛會と

今年度の山形大会のご盛會と体育・保健体育学習の更なる発展をご祈念申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

子を通して、熱く研究協議いただき、ご参会の皆様から貴重なご示唆をいただきました。今回頂戴した貴重な機会が、湖面に落ちた一滴の雫の水の輪が湖面全体に伝わっていくように、滋賀県全体へ全国へと広がっていきますように、大会レガシーとしてつなげてまいりたいと考えております。どうか皆様には、引き続きご指導を賜りますことをお願い申し上げます。

第六十二回 全国学校体育研究大会 山形大会開催にあたって

山形大会実行委員会 会長 大内 郭嘉



山形県は、全国生産量日本一の「さくらんぼ」「べにばな」と鮮やかな四季のある県であります。また、蔵王、月山、鳥海と日本百名山に数えられる秀麗な山々に囲まれ、俳人松尾芭蕉は出羽三山を目指した「心の旅」と言われるように、いにしえの昔から精神文化の地とあがめられてきました。さらに「母なる川」最上川が流れる、美しい自然に恵まれ、そこに住む市街地と農地が綾をなし、自然と人間が調和する、あたたかい山形が存在しております。

第六十二回全国学校体育研究大会山形大会の開催にあたり、御指導・御支援を賜りましたスポーツ庁、公益財団法人日本学校体育研究連合会をはじめ、指

導助言者、山形県教育局、山形市教育委員会の皆様深く感謝申し上げますとともに、長年に渡り学校体育の充実・発展に御尽力いただき本日表彰を受けられます学校並びに体育指導者の皆様に心からお祝い申し上げます。

昨年度の滋賀大会の開会式で、来年は「紅花の里、山形」へお越しいただき、全国の体育関係者と「未来へと、希望の紅花（はな）を咲かせましょう、やっしょう！ まかしょ！」とPRさせていただいたところで

すが、本日多くの参加者の皆様に山形の地にお越しいただきましたこと大変うれしく思っております。併せて、昭和四十九年の開催以来、約五十年振り二度目の山形大会を開催するにあたり、私の胸中には緊張と喜びが同居しております。さて、これからの時代を生きる子供たちが、明るく豊かで活力ある生活を営むためには、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現すること

が重要であります。これに向けて学習指導要領等では、幼児児童生徒が身に付けることを目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理し、内容等の改善が図られました。これらを確実に身に付けるための視点としての主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメントの充実、

さらに「子供たちにどのような力が身に付いたのか」という学習の成果を的確に捉え、「指導と評価の一体化」が実現されることが期待されています。

そこで山形大会では、幼稚園教育要領・学習指導要領の趣旨及び内容、並びに山形県の子供の実態やこれまでの研究実践を踏まえ、大会主題を「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて三つの資質・能力をバランスよく育成する体育・保健体育学習の在り方」と設定したところで

これまで山形県では、学習指導要領等の改訂を受けて、生涯にわたって運動やスポーツに多様な形で関わっていくことができると子供を育てるといった考え方もと研究実践を進めています。例えば、校種ごとに卒業までを見通した年間指導計画や系統性を踏まえた単元指導計画を作成し、資質・能力の三つの柱の関連を図った指導の充実や、学習成果を上げるための効果的なICTの活用などの指導の工夫を

図っています。それらを通して、体育においては技能の指導に、保健においては知識の指導に偏ることなく、三つの資質・能力をバランスよく育むことができ

る学習過程を工夫し心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフが実現できるようにすることを目指して取り組んだところで

本大会では、山形県が進めてきた授業改善の成果を踏まえた授業を公開し、各分科会において大会主題に掲げる体育・保健

体育学習の在り方について提案させていただきます。

今大会を迎えるに当たり、コロナ禍四年目も安全安心を最優先に学びを充実させ、いかに有意義な大会にしていくのか議論を重ねこの日を迎えたところで、その、協働性、コミュニケーション、思いやり、そしてリアルに

対面することの大切さ、温かい人間関係等を学ぶことができ

ました。この学びができるのは体育・保健体育学習であると確信しています。日本の未来を創る子どもたちを育むその学習の在り方について、全国の皆様から御意見や御指導を頂き、改めて誓い合う山形大会にしたいと考えております。

結びに、本研究発表大会に向けて多大な御支援御協力をいただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

分科会 授業の見どころ

第1分科会	竹田幼稚園
<p><公開授業領域> 体と心を動かす遊び</p>	
<p><分科会研究主題> 人とのかかわり合いの中で、力一杯遊びこめる幼児の育成を目指して</p>	
<p><保育の見どころ> 幼児が友だちや教師とかかわり、主体的に遊びを楽しむ中で、興味や探求心が高まったり、自分たちで遊び方を工夫したりしています。それぞれが遊びに夢中になる中で、様々な動きを経験している姿をご覧ください。</p>	
<p><保育者の思い・意気込み> 教師の丁寧な遊びの見取りと幼児理解、力一杯遊びこめる環境の構成の工夫を行い、幼児が意欲的に遊び経験を積める保育を目指しています。</p>	
<p><指導助言者> 東京学芸大学 教授 吉田 伊津美</p>	

第2分科会	山形市立第五小学校
<p><公開授業領域> ①体づくり運動 (体ほぐしの運動、体の動きを高める運動) ②保健(心の健康)</p>	
<p><分科会研究主題> 挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子どもの育成～自他への気付きを深め、共に成長する体育科の学び～</p>	
<p><授業の見どころ> 課題を自分事として捉えながら、体育の楽しさを実感したり、他との違いに気付きながら学び合ったりする中で、共に高め合う授業を目指しています。</p>	
<p><授業者の思い・意気込み> 公開①：体力の必要性や正しい運動の行い方を理解するとともに、自己の課題を踏まえ楽しく運動を行いながら体の動きを高める姿や、どのような工夫ができるか考え、場や練習方法を選択し、学び合いながら活動する姿をご覧ください。 公開②：誰もが経験する不安や悩みには、様々な解決・解消方法があることを知り、自分事にしてその効果を考えていきます。友達と学び合う中で、他との違いに気付きながら自分に合う方法を判断していく学びをご覧ください。</p>	
<p><指導助言者> 埼玉県春日部市立上沖小学校 校長 鈴木 美江</p>	

第3分科会	山形市立千歳小学校
<p><公開授業領域> ①表現運動(表現) ②ボール運動(ネット型：ソフトバレーボール)</p>	
<p><分科会研究主題> 仲間とつながりながら 思いをもって 粘り強く学び合う子どもの育成</p>	
<p><授業の見どころ> 子ども同士のつながりを重視した授業によって、身につけさせたい資質・能力をバランスよく育成することを目指します。</p>	
<p><授業者の思い・意気込み> 公開①：運動量を確保し、身に付けさせたい資質・能力を明確にすることで、目指す姿が明確にイメージできるようにします。 公開②：個人やグループの思いや気付き、願い、課題などを具体的に言葉にすることで、相手に伝えたり、考えを共有したりすることができます。仲間と関わることで、更に考えを深め、新たな課題に気付くことを促します。 また、単元を通してICTを効果的に活用し、メタ認知力を高めることで、広い視野をもち、多角的、多面的な視点で課題を考えることができるようになります。</p>	
<p><指導助言者> 盛岡大学 教授 盛島 寛</p>	

第4分科会	山形市立高瀬小学校
<p><公開授業領域> ①器械・器具を使つての運動遊び (マットを使った運動遊び) ②ボール運動(ゴール型・ハンドボール)</p>	
<p><分科会研究主題> 健やかでたくましい 高瀬っ子の育成 ～自他の高まりを表現することを通して、技能の質を向上させる子どもを目指して～</p>	
<p><授業の見どころ> 子どもの意識に沿った課題づくり・単元構成、夢中になれる場の設定やルールの工夫、キーワード(技能のポイント)を使った伝え合い場面の設定により、子ども達が主体的に課題を解決しながら技能を高める授業を目指しています。</p>	
<p><授業者の思い・意気込み> 公開①：より楽しい運動遊びが引き出される場を子ども達と創ってきました。さらに、子ども達が楽しさや手応えを伝え合う中で、それを契機に自らの運動遊びを広げたり深めたりしていく姿をご覧ください。 公開②：ゲームを通じて、チームとしての攻め方について話し合います。その有効性について思考して検証したり、仲間の考えやプレイの良さを認めたりすることで、より良いプレイを目指す子ども達の姿をご覧ください。</p>	
<p><指導助言者> 宮城教育大学 教授 木下 英俊</p>	

第5分科会	山形大学附属小学校
<公開授業領域> ①体つくりの運動遊び（多様な動きをつくる運動遊び） ②陸上運動（ハードル走）	
<分科会研究主題> 自ら問題解決を進める子ども ～特性を味わいながら、多様な運動への関わり方を見つけ、学びをつくる～	
<授業の見どころ> 運動に多様な形で関わっていくことを通して、子どもたちが様々な学びの価値に気付いたり、それぞれの学びを認め合ったりするような体育の授業を、子どもたちとつくりたいと考えています。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：子どもたちが多様な動きをつくる運動遊びを楽しみながら、自分たちで工夫して楽しい遊び方を考えたり、友だちに伝えたりしながら、いろいろな運動に挑戦する姿をご覧ください。 公開②：全員が「リズムカルに走り越す楽しさ」を味わうことを目標に、子ども一人一人が自己の課題解決に向けて、場や練習方法を選択し、学び合いながら運動していく姿をご覧ください。	
<指導助言者> 東京学芸大学 教授 佐藤 善人	

第6分科会	山形市立第三中学校
<公開授業領域> ①陸上競技（短距離走・リレー） ②球技（ネット型：バレーボール）	
<分科会研究主題> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫 ～ICTの効果的な活用～	
<授業の見どころ> ICTの効果的な活用により、「技能」を中核とし、「知識」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の相互の関連を図りながら、三つの資質・能力を育成する授業を目指します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：「思考力、判断力、表現力等」の「練習方法の選択」を指導します。動きの比較等のICTの効果的な活用により、「自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている」生徒の姿をご覧ください。 公開②：「学びに向かう力、人間性等」の「協力」を指導します。映像視聴や映像撮影等のICTの効果的な活用により、「練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている」生徒の姿をご覧ください。	
<指導助言者> 岩手県教育委員会事務局学校教育室 首席指導主事兼生徒指導課長 千田 幸喜	

第7分科会	山形市立第四中学校
<公開授業領域> ①器械運動（マット運動） ②ダンス（現代的なリズムのダンス）	
<分科会研究主題> 楽しさや喜びを実感し、運動やスポーツに意欲的に親しむ生徒の育成	
<授業の見どころ> 自己の適性に応じた「する・みる・支える・知る」などの多様な関わり方と関連付けながら、「できる」「できない」にこだわらず、楽しさや喜びが実感できる体育の授業を目指します。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：ICT端末を活用して、自己やペアの演技を客観的に分析し、「どこがどうなるとさらに出来栄が向上するのか」を探求します。明確にしたポイントを意識したり、目指す動きと自分達の動きを比較したりしながら、協働的に課題解決に向かう姿をご覧ください。 公開②：タイミングをずらす、隊形を変化させるといった集団だからこそできる動きを通して、仲間とともに体を動かす楽しさや一体感を味わいながら活動する姿をご覧ください。	
<指導助言者> 秋田市立日新小学校 校長 星野 和貴	

第8分科会	山形市立第五中学校
<公開授業領域> ①器械運動（跳び箱運動） ②武道（剣道）	
<分科会研究主題> 三つの資質・能力をバランスよく育成する保健体育学習～仲間と協働しながら課題解決を目指す学習活動を通して～	
<授業の見どころ> ①器械運動 各々の技能課題に向き合いながら、仲間と互いに助言や補助、動画撮影や分析などを通して働き合い、それらにより上達していく生徒の姿。 ②武道 初めての剣道具をつけての剣道学習で、仲間と協力しながら、しかけ技・応じ技をどのように出すかを考えて取り組む生徒の姿。	
<授業者の思い・意気込み> 公開①：これまでの授業で積み重ねてきた生徒同士の信頼関係があってこそ成り立つ活動の様子をご覧ください。 公開②：剣道授業3年目の取組を通して、武道の学習に向かう姿勢、他者とのかかわり方を考えて取り組む姿勢をご覧ください。	
<指導助言者> 福岡県行橋市立泉中学校 校長 藤田 弘美	

第9分科会	山形大学附属中学校
<p><公開授業領域></p> <p>①保健 健康な生活と疾病の予防 「健康を守る社会の取組」</p> <p>②体づくり運動 (体ほぐしの運動、体の動きを高める運動)</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>生徒が「学びの主体」となる授業の共創 ～伴走者としての教師の在り方～</p> <p><授業の見どころ></p> <p>教師としての在り方・立ち位置の工夫（授業の場面に わせて生徒と関わる立ち位置を変える）</p> <p>公開①：どのように人生を歩みたいのかという生徒の 理想に対し、健康が不可欠であるという価値付けと 健康な生活に必要な知識の指導（先導）、生徒が感じる 生活課題の共有（並走）、課題解決に向けて思考する 取組の軌道修正、知識の補足（フォローアップ）</p> <p>公開②：どのように運動をしたいのかという生徒の理 想に対し、生徒の自己の課題に向けた運動への取組 内容や方法の指導（先導）、生徒が自己や他者との対 話を通して、設定している運動の共有（並走）、運動 による心の変化の気付きへの促しや設定した運動の 軌道修正及び知識の補足（フォローアップ）</p> <p><授業者の思い・意気込み></p> <p>生徒が主体的に学んでいくために、教師は伴走者とし てどのように関わっていくべきかを日々試行錯誤して います。単元を通しては元より、50分間の授業の中 でも先導・並走・フォローアップと、その時々に必要な 教師としての在り方について、参観者の皆様と協議で できれば幸いです。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>東京国際大学 准教授 木原 慎介</p>	

第10分科会	山形県立山形中央高等学校
<p><公開授業領域></p> <p>①保健（現代社会と健康） 「生活習慣病などの予防と回復」</p> <p>②体づくり運動 (体ほぐしの運動、実生活に活かす運動の計画)</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>豊かなスポーツライフを継続するための実践力の育成 ～体育と保健の関連を図った授業の工夫を通して～</p> <p><授業の見どころ></p> <p>体育と保健を関連付けながら知識の定着を図るための、 既習内容や課題を共有する効果的なICTの活用に取り 組めます。資質・能力の三つの柱の関連を図り、生徒 が学んだことを実生活に活かせるような実践力を育成 していきたい。</p> <p><授業者の思い・意気込み></p> <p>公開①：ICTを活用し振り返りを丁寧に行うことで知 識の定着を図ることを目指しています。さらに、生 活習慣病などの予防と回復に必要な社会的な対策に ついて、既習内容を活用し考えを深め、健康課題の 視点を自己から社会へ広げていけるようにします。</p> <p>公開②：ICTを効果的に活用し、保健と関連させなが ら、運動の重要性を理解させるとともに、思考の深 まりを導く、発問や場の工夫をしています。仲間と のかかわり、学び合いの姿をご覧ください。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>北翔大学 教授 森 靖明</p>	

第11分科会	県立上山明新館高等学校
<p><公開授業領域></p> <p>①球技（ゴール型：バスケットボール）</p> <p>②体育理論（豊かなスポーツライフの設計の仕方）</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>運動やスポーツに多様な形で意欲的に関わる生徒の育 成</p> <p><授業の見どころ></p> <p>①共生の視点で関連づけた三つの資質・能力を深める ための、違いを超えて仲間とともに楽しむためのル ール作りの話合いとそのルールを採用したゲーム実践。</p> <p>②学習した知識と自分たちで身近な人にインタビュー して得た情報を活用して考え、自己と社会の課題を 見つける姿。</p> <p><授業者の思い・意気込み></p> <p>公開①：一人一人の違いを大切に、他人に配慮した 言動・行動などの調整の仕方を見つけていることを目指 します。</p> <p>公開②：スポーツとの関わり方について、生徒が当事 者意識を持って、現実的で具体的な自己と社会の課 題を深く考えることを目指します。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>茨城大学 教授 吉野 聡</p>	

第12分科会	山形県立村山特別支援学校
<p><公開授業領域></p> <p>①中学部：ダンス</p> <p>②小学部：ボールを使った運動やゲーム</p>	
<p><分科会研究主題></p> <p>児童生徒が「できた！」「楽しい！」と実感し、「もっ とやりたい！」につながる体育の授業づくり～「する・ みる・支える・知る」の視点を取り入れて～</p> <p><授業の見どころ></p> <p>児童生徒に応じた「する・みる・支える・知る」の姿 を授業づくりに活かし、一人一人の「できた」や「楽 しい」に結び付け授業づくりを目指します。</p> <p><授業者の思い・意気込み></p> <p>公開①：これまでに習得したステップを活用し、山形 県伝統の花笠音頭に合わせて踊ります。生徒が思い や考えを伝え合いながら意欲的にダンスに取り組む 姿をご覧ください。</p> <p>公開②：基本的なボール（風船）操作の技能を活用し、 友達や教師と関わりながら楽しくゲームに取り組む 姿をご覧ください。</p>	
<p><指導助言者></p> <p>国士舘大学 准教授 松浦 孝明</p>	

相模原市立東林小学校（神奈川県）

<研究主題>

「夢中になって学び続ける子」

<研究の目的>

子どもが主体的に夢や目標をもって、運動（表現）の仕方を育み、動きの獲得の方法（思考の仕方）を育てるとともに、学び続ける力を育てるための授業改善に取り組む。

<研究内容と成果>

- 知識や思考の仕方やめざす姿を、掲示物や学習カード、ICT機器などによって【見える化・聞こえる化】することにより研究内容の汎用を図れるようになってきた。
- 子どもへの関わり方が理解できたり、教師自身が問題解決的な思考をしたりすることで、課題の焦点化が図れるようになった。

大津市立平野小学校（滋賀県）

<研究主題>

「わかった！できた！もっとこうしたい！！」

——全ての子が主体的に学びを深めるための単元デザイン——

<研究の目的>

「自ら課題を設定し主体的に取り組み、学びを深める姿」を生み出すため、進んで運動に取り組む素地を育むとともに、運動への親しみがもち続けられるようにする。

<研究内容と成果>

- 「本単元で目指す姿」を生み出すための「深い学びの姿」をあらかじめ描いておくことで、適切な支援や整備ができ、子どもたちの主体的な学びがみられるようになった。
- 単元構想段階で、児童のつまづきを予め予想しておくことで、場や具体的な支援に生かすことができた。

長崎市立上長崎小学校（長崎県）

<研究主題>

「体育科学習を土台とした、体力及び学力向上の取組」

<研究の目的>

基本的な生活習慣と運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、体育科の学習の在り方、学校教育活動全体における統括的な取組及び体力向上の取組の充実・振興を目指す。

<研究内容と成果>

- 遊具施設の活用や様々な遊びの仕掛け等により、児童が自然に楽しく遊んだり、運動する楽しさ・喜びを味わったりすることで、運動好きな児童が増えた。
- 全ての学級で行う授業研究を中心に、成果と課題を踏まえた演繹的な研究推進を行い、「主体的・対話的で深く学ぶ教師」を目指すことができた。

令和5年度 体育授業優秀教員 受賞者紹介

余田 峻也（よでん しゅんや） 札幌市立幌南小学校（北海道）教諭

<実績>

- 平成28年 北海道学校体育研究大会 授業者
- 平成30年、令和3年、令和4年 北海道小学校教育研究大会 授業者
- 令和2年～4年 「感染予防に配慮した体育学習指導資料」作成担当

<体育授業における実践>

- 目指す子ども像の明確化、子ども自ら課題をもつための手だての構築、個に応じた課題解決に向けた場や方法の場面設定
- 運動の楽しさや特性を味わえる「材の吟味」、子ども自身が選ぶ「自己選択・自己決定」、子どもの追及を支える「教師の立ち位置」による実践

首藤 祐太郎（しゅどう ゆうたろう） 埼玉大学教育学部附属小学校（埼玉県）教諭

<実績>

- 埼玉県小学校体育連盟理事長
- 令和元年 全国学校体育研究大会埼玉大会 授業者及び委員（編集部）
- 令和4年 埼玉県小学校中堅教諭等資質向上研修教科指導及び生徒指導等研修 講師
- 令和5年 埼玉県運動好きな児童生徒育成推進委員会 授業公開及び動画作成

<体育授業における実践>

- 児童が主体的に学ぶための、児童の実態把握と自己決定への支援
- 学びの中心となる動きの焦点化と、児童にとって分かりやすく、学びやすい教材の作成による個に応じた学びの工夫

山田 隆英（やまだ たかひで） 長岡市立東北中学校（新潟県）教諭

<実績>

- 平成26年 子どもの体力向上指導者養成研修会参加 新潟県伝達講習会 講師
- 令和2年 子どもの体力向上指導者養成研修会参加（オンライン） 新潟県研修会
伝達講習動画配信及び実践発表
- 令和4年 自主研修会による授業公開

<体育授業における実践>

- 「主体的な学び」の手立てとしての技能レベルに応じた示範、「対話的な学び」としてのICT端末を活用した取組、「深い学び」のための自己の試技の表現を実践
- 動きの系統性を踏まえた、段階的な技能向上の工夫

令和5年度（2023年度）

全国学校体育実技指導者講習会の実施報告

—講習内容の概要—

幼稚園・いごも園の部

●日時：七月二十五日（火）

●会場：千代田区千代田小学校
体育館

●受講者：三十四名

●主題「健康な心と体を育てる運動遊び」

○趣旨 温暖化・コロナ禍で体を動かす機会が少なくなり体力の低下している中、やっとマスクを外して子供たちが遊べるようになった。保育者も体を動かす心地よさを感じながら、現場で実践できる運動遊びの理論と実践講習会を通して二学期からの楽しい運動遊びの展開につなげ、運動遊びの充実を期待する。

●内容

①「小学校につながる運動遊び」
講師 昭島市立光華小学校長 眞砂野 裕先生
子供たちの気持ちを指導者に向けることが大切であるという言葉から講習がスタートした。心がつながったところで、楽しい運動遊びをすることが基本となり、動くことが楽しめる。アイズブレイクではいつも使われない方の手でジャンケンをする。グチャグチャウオーキングではぶつからないように、いろいろな歩き方をする中で、自分と

相手との距離・方向を感じることにつながる。また、そこでコミュニケーションをとりながら仲間集めをすることで、遊びを通じた人間関係づくりになる等遊びの中にある学びにつながる話を聞きながら笑顔の絶えない研修になった。



②「子供たちと一緒につくる運動遊び」
講師 一般社団法人あそび庁 代表理事 小山 亮二先生
基本は次の①から③の根拠をもって支援していくことが土台にあり、基本がわかると保育者としてスキルアップしていくことが可能になる。①しあわせ（ウエルビーイング）の実現、②遊びの本質（楽しい・おもしろい・気持ちいい）を引き出す、③子供の主体性を引き出すかわり方が基本である。遊びの中で、やってほしいことを命じるのではなく、体を動かす楽しさが味わえるようにするには主体性が大事であること、子供にゆ

だねる形にしていくことが必要で、主体性が高まる言葉を掛けることの大切さを学んだ。



③「ケンちゃん足育絵本の紹介」
講師 本会足育推進委員会 幼児教育部会
昨年発行した「足育絵本」の意義と使い方のポイントを解説した。終了後には、ベルトのない靴の場合や裸足の効用についての質問などが個別にあった。各園で活用されることに期待している。

④「器具を使った運動遊び」
講師 株式会社こども体育研究所 所務部次長 笠原 孝之先生他
こども体育研究所では日常から各幼児教育施設等で体育を通じて生きる力を育む活動をされており、今回は①準備運動・徒手運動、②長な運動、③鉄棒運動、④遊戯運動の基本を紹介していた。

中でもイメージをもって動くことで、楽しみながら動きを誘

発していく内容が好評であり、「無人島に冒険に行く旅」では、指導者の言葉で車やボートの動きをしたり、サメから逃げたり、川を跳び越えたりするストーリー性のある指導は二学期からすぐにやってみたくなる内容であった。

⑤「運動遊びのストーリー」
講師 東京女子体育大学専任講師 堀内 亮輔先生
プレイヤーとしても活躍されている先生の実践は明日からの保育にすぐにつながる内容であり、とても参考になったという声が多かった。

ストーリーに子供を招き入れることが基本で、運動遊びの定義とは体と心を動かしながら運動をすること、遊ぶことを目的とする活動であると話された。みんなで同じストーリーの中で動く楽しさとしてリズムの国や忍者の国等のイメージで動いた後、パラバルーンでも海に見立て、くじらやイルカが登場して動くなど幅広い活用の仕方を学んだ。

運動能力の低下は動く力だけではなく、考える力や関わる力、学びに向かう力等総合的な力の低下につながると懸念されていた。体育の視点ではなく遊びの視点で運動を指導していく保育

プレイヤーが必要であり環境を整え、運動を届けることが重要であることが理解できた。



小学校の部

第二日 七月二十五日(水)

●会場：千代田区立昌平小学校

●体育館・多目的ホール

●受講者：百二十八名

●内容

①ボール運動

講師 日本女子体育大学准教授

須甲 理生先生

ウォーミングアップとして「リピートアフターミー」や忍者じゃんけん、体の後ろ数字見つけなど、この後の運動に関連する動きを取り入れながら行った。

続いてゴール型ゲームのサッカーを行い、四対四でフリーゾーン設け、それを生かしながらのゲームを目指しました。特にボールを持たない時の動きを意識させることや逆の動きを取り入れることでパスコースをつ

くることなど、実際に動きを確認しながら、よい動きには具体的称賛で評価していきましました。また、考えて動くことを意識させ、肯定的フィードバックをすることで余り動けなくても、ゴールとボールの位置関係の大切さを学んだ。



後半の時間はド、リブルドンじゃんけんやピボットゲームでボールに慣れた後、攻守固定の三対二のゲームで途中から三対三のイーブンになる形で攻撃を考えていくゲームを行った。

最後に、ベースボール型のゲームにも挑戦し、ティーでの打撃、二人集まったのアウトの形などの工夫で、経験や力量の差が出ないような工夫ができることを学んだ。

受講者のみなさんは、ゲームを通して、ボール運動系の三つ

の型の運動の特性に応じた楽しさを味わう工夫が学べたと話していた。

②体づくり運動

講師 筑波大学准教授

三田部 勇先生

体ほぐしの運動から始まった。二人組で縦に並び肩をたたいた方に曲がる。その動きを前の人が目をつむって行う。同じように四人組で正方形をつくり、合図の方向に曲がるなどの動きで体や心をほぐして行きました。

次に、体でジャンケを人数ややり方を変えながら行い、さらに「言うこと一緒、やること一緒」「あんたがたどきさ」「もしもしかめよ」など動きを考えながら交流していった。

そして十cm幅のテープの上でのすれ違いから始まり、風船を使った動き、力試しでの腕押し相撲、二人組から八人組まで人数を増やしての立つ、座る。動物歩き、ゴム跳び、長縄くぐりなど次から次へとグループの仲間と動きのバリエーションを増やしていった。

具体的には用具、人数、姿勢、距離、時間、方向などの条件を考えながら、児童の主体性を尊重した取組を大切にすること、スポーツ庁のデジタル資料などを活用することも有効であると

の助言があった。授業の中で、発問から思考を促し表現し、動きのポイントを共有する中で、知識や技能につなげていくことが大切になるという指導をいただいた。



第二日 七月二十六日(木)

●会場：千代田区立昌平小学校

●体育館・多目的ホール

●受講者：百二十八名

●内容

③多様な動きをつくる運動

講師 神戸女子大学専任講師

住本 純先生

学習指導要領では大きなボールと表記されていますが、一般的にはGボール、バランスボールと呼ばれる用具を使った多様な動きをつくる運動(遊び)の講習である。

まずは、けがをしないための転び方から入り、安全面での確

認を行った。ボールを使ったウォーミングアップは、様々な乗り方、人数を増やしてのバランスなど、児童の興味を高めていく入り方を行った。



その後は、多様な動きに示されているようにバランス以外の用具操作、力試し、移動をボールの特性を生かしながら、人数を変え、方向やリズム、姿勢を工夫しながら、グループで協力しながら取り組んだ。また小さなボールも使い、大きいボールとは違った操作や動きの工夫も経験できた。

児童が自然に動くような仕掛けを考えておくことが指導する側には求められているとの助言があった。

④器械運動

講師 日本大学教授

水島 宏一先生

器械運動で使う部位や動きを意識したウォーミングアップから行った。最初は前転を取り上げ、頭頂部がついてしまう、腰

が上がっていない児童に対して、どのような言葉で伝えるのか、そのことがとても重要だと助言をいただいた。同じように開脚前転の足が曲がってしまう、側方倒立回転のうまく回転できないなどの課題に対して、どのような場で課題に挑戦し、教師はどう指導するのかを十分考えておくことが重要であるとの助言があった。

実際にマットを使って、前転、ゆりかごからの後転、開脚前転、側方倒立回転を坂道マットの活用や重ねたマットなど場を工夫しながら調整した。児童のつまずきに対してどの部分でフォローのできるのか考えながらの実技講習であった。



中・義務教育 中等教育・高等学校 特別支援学校の部

●日時：八月十日(木)

●会場：千代田区立九段中等教育学校体育館

●受講者：五十名

●内容

①午前「誰でもできる脳と体を使った運動の実践」

講師 株式会社ウエルネスデイ
ベロップメント ライフキネティック日本支部 マスタートレーナー 中川 慎司先生

前半の講義では、ライフキネティックが「運動と知覚機能と認知機能を活用して行われる」ものであること、脳のはたらきと運動との関係にまつわる話とライフキネティックは「簡単な動きで脳の活性化を促す(動作の修得が目的ではない)」「動作だけでなく、知覚・聴覚・触覚・認知機能も利用する」「指導者次第で無数にトレーニングを作成できる」「幼児から競技者、高齢者まですべてが指導対象となる」という特徴があることなどについて話していただいた。

特に「誰でもできる」「楽しい」「できることが目的ではなく、挑戦することが重要」といったポイントが学校現場で役に立つ

ことがわかった。実際に座ったままでもできる実践を通して、前述の特徴を体感できることができた。



後半の実技では、十名程度のグループで円を作り三色のボールを使用してキャッチボールを行った。キャッチボールでは、様々な条件を付けて行った。「円の通りにはパスしない」「必ず全員が一度ボールを受け、投げる」「ボールの色によってコースを変える」などの条件を踏まえ、グループごとにコースを設定した。このような形でボールの種類を徐々に増やしてスムーズにキャッチボールがチームでできるように挑戦した。

また、ボールを一人一個持ち、グループで円を作る。「せーのっ！」でボールを上投げ、

時計回りに一人分ずつ左隣の人が投げたボールをキャッチする。これを二〜三秒に一回のペースで続ける。この後、難易度を上げるため、キャッチするときに数を数えていき、「三の倍数でバウンド」「五の倍数で反時計回り」などの条件を増やして実施した。



上記以外にもラインを利用した運動等も行った。ラインに沿って進むが、ラインより右に右足、左に左足、次は右に両足、左に左足…というようにステップして進んだ。難易度を上げる際にはラインの左に右足というように足がクロスするようなステップにした。質疑応答含めて正午過ぎに午前の部を終了した。

②午後「球技 ネット型(バレーボール)の授業づくり」

講師 東京都立日野台高等学校
主幹教諭 杉山 幹直先生
前半の講義では、体の使い方について、けがをさせないための「正しい(現時点での)」動きについて科学的な根拠をもとに解説していただいた。

特に、スパイクやサーブにおける肩の使い方については他のスポーツにも通じるものがあり、無理なく力が最も入る「ゼロポジション」(肩甲棘と上腕骨が一直線になる位置関係)を通過するように肩を回していくことを意識させることが大切であることをあらためて確認できた。

後半の実技では、ストレッチ後に二人組によるキャッチボールを導入として用いた。条件をワンバウンドしてよい、常にキャッチしてよい、続いたラリーの回数だけ点数が入る、などで始めた。その後、キャッチは一回のみ、となるとチームごとにどこでキャッチするのが効果的かを考えて行うようになり、盛り上がっていた。ネットの高さは誰でもスパイクができるようにするため、たるませてあり、最も低いところで一七〇cm程度であった。バドミントンのネットを張っても良い。

スパイクの技術では、前にジャンプしないために、右利き

の場合は、「左↓右左」とステツプするが、右足の時につま先を右に四十五度向けて、つぎの左足の時にはつま先を進行方向より九十度つま先を右にむけるようにして踏み切る。これを意識しながらジャンプしてボールに手を当てる練習を行った。音楽に合わせてジャンプからボールに当てるまでリズムに乗って行うことも実施した。曲に合わせて跳ぶことで、楽しく練習できるし、跳んでから手に当てるまでを一定のリズムでできるので、スパイクの流れがつかめる練習であった。



また、パスの技術では、アンダーハンドパス、オーバーハンドパスを小学生でもできるようになるために、簡単な動きから段階的に練習した。アンダーハ

ンドパスでは、しっかりと腰を落とすことを意識して行うことができた。オーバーハンドパスではボールを受ける手の形とパスをし終わったときの手の形を意識することで、手の使い方、動かし方を確認することができた。特に生徒にどのように教えれば、どのような言葉で説明すればそのような動きになるか、学ぶことができた。その後質疑応答、閉会式を含めて、午後四時三十分を終了した。

本日の内容は、いづれも今後の授業に活かすことができる内容であり、受講生も笑顔いっぱいのもま終わることができて、楽しく実践できた講習会であった。

兵庫開催《小学校の部》

●日時：八月二十二日（火）

●会場：神戸常盤アリーナ

●受講者：四十一名

○趣旨 体育実技が苦手な小学校教員が実技能力を高め、指導力の向上を図るとともに、発達段階や習熟段階に応じた指導を取り入れた授業づくりの一助とする。

●内容

①午前「体づくり運動」

講師 国士館大学文学部教育学

科教授

細越 淳二先生

はじめに学びの達成感を導く指導の要点等についてご講義いただいた。実技講習では、ケンステップを使用し、簡単なジャンプ運動の中で体の基本的な動きを身につけると共に、足の左右や両足・片足を組み合わせる等、頭を使った運動へと発展。立ち幅跳びにつながる動きを組みこむ工夫も教えていただきました。投運動では、ジャベポールやテニスボールを使ったものから、新聞紙で作ったやり投げのような道具もご紹介いただき、身近なものを利用するヒントもいただけました。随所に多様な動きをつくる運動遊びの工夫があり、大変参考になった。最後に行われた縄跳びを使った運動では、仲間と息を合わせて課題に挑戦する中で、コミュニケーション



ションが生まれ、受講者同士で達成感や楽しさを共有し、午前の講習を終了した。

②午後「ボール運動系」

講師 日本女子体育大学准教授

須甲 理生先生

受講者が六、七名ずつのグループに分かれ、簡単な体づくり運動を用いた、準備運動からスタートした。

最初に、ネット型のボール運動として、バレーボールを行った。ソフトバレーボールを使い、ボールを浮かさずにフロア上のみで三段攻撃の動きを覚えるところから、徐々に発展させ、本来のバレーボールのゲームに段階的に近づけていった。ゴム製のソフトバレーボールを使用したり、ゴム紐や補助支柱を用いてネットの高さを自在に調整したりと、運動能力等のレベルに合わせた場や用具の工夫が大切なことを学んだ。また、ルールによる制限を加える等、段階に合わせて工夫することで、その中でどのようにしたらうまくできるかという思考が自然と受講者の中から生まれていった。

後半は、ゴール型のボール運動としてサッカーを行った。フリーゾーンと呼ぶスペースを作り、作戦の工夫やゴールするためのコツを自然と体得させる工

夫がなされていきました。三名程度の人数で行うことで、一人一人の運動量も多く、受講者全員が積極的に汗を流されているのが印象的であった。



今回、本講習会を初めて地方開催で行うという試みであったが、兵庫県のみならず、他府県からも複数名参加があり、大変実りある講習会となった。今後、様々な地域でこういった機会があれば、より多くの全国の熱心な先生方の良き研修の場として本講習会が発展していけるものと期待される。

令和4年度 各都道府県教育委員会 長期研修生等合同発表大会

【主催】 (公財) 日本学校体育研究連合会

【目的】 体育、保健体育の指導者の資質向上を図るとともに、各教育機関の教員研修事業の充実に資する。

【日時】 令和5年3月5日(日)

【開催場所】 日本体育大学 記念講堂

山口 剛史 (八潮市立大曾根小学校)

【演題】 運動好きな児童を育てる体育授業の研究
—振動系を中心とした鉄棒遊びの教材開発—

【概要】

低学年の「鉄棒を使った運動遊び」において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現できる教材を開発し、適切な教師行動のもとで授業を展開することで、運動(鉄棒・体育)が好きな児童の育成を目指した。単元を通して、友達との豊かな関わりの中で運動に取り組み、技能を向上させることができた。その結果、すべての児童が「鉄棒が好き」「体育が好き」と回答し、一定の有効性を確かめられた。

江口 竜太 (川口市立原町小学校)

【演題】 すべての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことができる体育授業
—サッカー教材における、課題解決に向けた児童の主体性を引き出す指導の工夫—

【概要】

本研究では、児童が自己やチームにとって必要な課題を見つけ、進んで課題解決に取り組み、課題を解決できた実感を得ることができる体育授業を目指した。主体性を引き出すための学習指導過程の工夫、課題を誇張した教材の工夫、児童の気付きを誘い、学びを方向付ける発問の工夫を検討し、実践した。その結果、学習指導過程、教材、発問の工夫が児童の運動有能感の高まりに有効であることが明らかになり、運動が好きな児童の育成につながることが示唆された。

木村 昭仁 (松戸市立東松戸小学校)

【演題】 ネット型の学習内容と学習過程の系統性の検討

【概要】

中・高学年を対象として、キャッチバレーボールにおいてオーバーハンドパスを簡易化した動き(肩より上から上げるトス)を取り入れ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」の変容から、学習内容と学習過程の系統性の検討を行った。その結果、4年生では、三段攻撃を成功させるためにオーバーハンドパスを簡易化した動きによるオープントスが有効であること、6年生では、クイックトスがブロックをかわすために有効であった。

中間 貴之 (八千代市立西高津小学校)

【演題】 ベースボール型「ティーボール」における児童の状況判断力を伸ばす授業の在り方

【概要】

ボール運動ベースボール型「ティーボール」において、「どこまで走るか・どこでアウトにするか」の状況判断の根拠となる知識とその状況判断に基づく技能を向上させる教材、教具並びに学習過程を工夫し、授業を通してその効果について検証した。その結果、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等並びに学びに向かう力、人間性等において期待する学習成果をバランス良く向上させていくことができた。

生沼 美紗樹 (二宮町立二宮小学校)

【演題】 運動有能感を高める体づくりの運動遊び
—受容感に着目した肯定的な関わり合いを築く活動を通して—

【概要】

児童の運動意欲を高めるためには、運動有能感を高めることが重要である。本研究では、運動有能感の因子である受容感に着目し、友達同士の肯定的な関わり合いを築く活動を通して、運動有能感を高めることを目指し、体づくりの運動遊びの単元に取り組んだ。研究の結果、受容感の有意な向上はなかったが、運動中の応援や運動後のお互いを褒める活動が定着し、運動有能感の高まりが見られた。

佐藤 香里 (大和市立上和田中学校)

【演題】 一人ひとりがプレイ原則を理解し、適切な意思決定ができるハンドボールの授業
—「わかる」と「できる」を結び、授業支援ツールの活用と少人数による学習機会の保障—

【概要】

球技が苦手な生徒や技能が劣る生徒が、ハンドボールを通してチームでパスを回しシュートをする喜びを味わえるよう、「わかる」と「できる」を結び付ける学習が大切である。本研究では、プレイ原則の理解を促すために授業支援ツールを活用し、球技が苦手な生徒や技能が劣る生徒が傍観者とならないよう少人数による学習機会を保障することで、一人ひとりがプレイ原則を理解し、適切な意思決定ができるようになると考え、検証を行った。

布田 健人 (神奈川県立柏陽高等学校)

【演題】 知識の必要性を認識できる体育理論の授業
—体験活動を取り入れた「教えて考えさせる授業」を通して—

【概要】

筆者はこれまで、体育における知識の学習については、教師からの伝達と生徒の習得に終始してしまい、生徒がその必要性を認識できるようにするまでの授業を展開できていなかった。そこで本研究では、体育理論の授業において、体験活動を取り入れた「教えて考えさせる授業」を展開し、体育理論で身に付けさせたい知識の必要性を認識させることについて、その成果を検証した結果、有効であることが分かった。

白田 利江 (川崎市立川崎中学校)

【演題】 自己と仲間のよさと課題を見付け伝え合う体育学習
—考えを共有する活動を通して—

【概要】

本研究では、「考えを共有する活動」を単元内に意図的に設定し、自己と仲間のよさや課題を見付け伝え合う児童生徒の姿を目指した。動きや考えの可視化、動きを見る視点の明確化が有効であることが分かった。また、教師が児童生徒の思考を促し、考えを引き出す言葉や、安心感を生み出す言葉、意欲につながる言葉を意図的にかけることによって、考えを共有する活動が充実し、自己と仲間のよさや課題を見付け伝える姿を引き出すことができた。

佐藤 良太 (茨城町立長岡小学校)

【演題】 児童が主体的に学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育科学習指導の在り方

【概要】

ティーボールで、自己決定の場の工夫とサクセスカード（技能のポイントを記載）を活用し、児童が主体的に学び、運動の楽しさや喜びを味わえる体育科学習指導の在り方を追究した。自己決定の場の工夫では、自分に合った道具や規則を選び、運動の楽しさや喜びを味わえた。サクセスカードの活用では、自己の課題に応じたカードを選び、技能のポイントを意識した活動を繰り返すことで、児童の主体的な学びを引き出すことができた。

小川 正博 (常陸太田市立金砂郷小学校)

【演題】 児童生徒の「投げる力」を高めるための体育科学学習指導
—ネット型ゲーム(ボールゲーム)の学習を通して—

【概要】

「投げる力」は、「遠くに投げる力」「狙って投げる力」「強く投げる力」の3つが相互に関連していると考え、本研究では、ボールを使った学習に意欲的に取り組み、「投げる力」が高まることで様々な運動に親しむ児童の育成を目指した。そこで、ネット型ゲームに意欲的に取り組めるように、ボール操作とゲームの中での判断が易しい「ボンバーゲーム」を行った。その結果、「投げる力」が高まり、他の運動も行おうとする意欲的な児童が増えた。

小田 珠樹 (嘉麻市立嘉穂小学校)

【演題】 運動遊びを楽しむ子供を育てる低学年体育科学学習指導
—思考を促す発問を通して—

【概要】

本研究では、動く楽しさ、遊び方を工夫する楽しさ、友達と関わる楽しさの3つの快感情を味わっている子供を目指した。そこで、思考を促す発問を「めあてをつかむ発問」「遊び方を考える発問」「充実感を得る発問」の3つの発問と各発問に対する「ゆきぶり・問い返しの発問」と捉え、単元や1単位時に意図的に位置付けたり、発問を効果的にする具体的支援を行ったりした。その結果、子供は、本時のめあてをもち、友達と遊び方を工夫しながら何度も運動遊びを楽しむことができた。

立石 哲平 (八女市立立花中学校)

【演題】 体育自己効力感を高める保健体育科学学習指導
—ルートマップを活用した学習活動を通して—

【概要】

自己に適した目標を設定したり、考えたことを伝え合ったり、振り返ったことを活かしたり、粘り強く運動に取り組んだりすることができるという自信をもつことができる生徒の育成を目指した。そこで、学習の個性化と指導の個別化の視点から具体的支援を行い、取り組み方を工夫したり、学習状況を把握したり、取り組み方を工夫したりする学習カード「ルートマップ」を使い学習を進めた。その結果、生徒は自己に適した目標に向かってそれぞれの取り組み方で運動を行い、体育自己効力感を高めることができた。

隈本 真 (福岡県立中間高等学校)

【演題】 運動やスポーツとの多様な関わりを実践できる生徒を育てる保健体育科学学習指導
—動きを可視化する活動を通して—

【概要】

ICT端末を活用した動きを可視化する活動を通して、保健体育科学学習において「する、みる、支える、知る」の視点から運動やスポーツとの関わり方を理解し、学習に取り組むことができる生徒を目指した。そこで、動きを可視化する活動を位置付けた単元構成や、効果的に行うための具体的支援を行った。その結果、多様な関わりの必要性を感じる生徒が増加し、今後の運動やスポーツの取り組み方や関わり方についても考えることができた。

鈴木 文彬 (戸田市立新曽中学校)

【演題】 主体的に学ぶ保健体育授業の研究
—ICTを活用し、選択場面を設定した体育理論の学習—

【概要】

中学校における体育理論の授業においてICTを活用した授業づくりを行い、主体的に学ぶ生徒を育てることを目指した。主な手立てはICTの効果的な活用や、生徒が教材を選択して学習する場面を設定すること、問いかけの形式による本時のねらいの提示の3つである。その結果、前向きに課題に取り組む生徒の割合が向上し、一定の成果が見られた。

河西 由香（習志野市立秋津小学校）

【演題】 運動のリズム化能力に着目した体づくりの運動遊び
—巧緻性の向上につながる対話的な学びを目指して—

【概要】

リズム第2学年「多様な動きをつくる運動遊び」の学習において、運動のリズムを意識して動いたり、運動のもとにした対話をしたりする学習指導を行った結果、対話の質が高いペアほど巧緻性が向上することが明らかになった。「表現リズム遊び」の「忍者」の要素を取り入れた学習内容、技能的異質・等質ペアの学び合いを毎時間設定した学習形態が、児童の巧緻性の向上に有効であることが示唆された。

川名 博子（南房総市立三芳小学校）

【演題】 投運動において、思考力・判断力・表現力を引き出す低学年体育学習の在り方
—運動のこつをイメージ化するオノマトペに着目して—

【概要】

本研究では、第2学年を対象として「多様な動きをつくる運動遊び」の授業実践を行い、低学年から思考力・判断力・表現力を育み、投能力を向上させていく学習の在り方を明らかにした。イメージしやすいオノマトペを用いて動きのこつを表現させたり、個々のレベルに応じて挑戦できたりする教材・教具を考案した。結果、動き方のこつがわかり（思考面）、投能力（技能面）も向上することが明らかになった。



令和五年度 ジャスぺ 足育 (あしいく) の推進について

足が変われば子どもが変わる
子どもが変われば『未来』が変わる

新型コロナウイルスの五類移行と共に、出前授業や学校保健委員会等の要請が急激に増えている。コロナ禍で積み上げてきたデジタル化の推進など新たな足育様式の創造を目指し、活動に取り組んでいる。

令和四年度の一年間の歩みを振り返るとともに、これからのJASPE足育の取組を記す。

《令和四年度の歩み》

一 足育推進委員会 (四回)

※リモートと対面でのハイブリッド形式で実施

① JASPE足育滋賀大会について

② 第四集に向けて

③ JASPE足育マイスター制度について

④ 各部会からの報告・協議

二 出前授業 ○ 学校保健委員会 ☆ 研修会・発表会 ◇

大田区立仲六郷小学校 ○

愛知県岡崎市立三島小学校 ○

品川区立清水台小学校 ☆

千葉市中学校体育部 ◇

文京区立礪川小学校 ☆

中野区立西中野小学校 ○

江戸川区立東小岩小学校 ○ ☆

杉並区立済美小学校 ◇

江東区立南陽小学校 ☆

葛飾区立渋江小学校 ○ ☆

荒川区立第一日暮里小学校 ☆

さいたま市立大砂土小学校 ☆

徳島市立福島小学校 ○

台東区立業平小学校 ○

葛飾区立木根川小学校 ○ ☆

練馬区立南町小学校 ○

三 分科会による活動

オンラインを基盤に活動

① 事業実践部会 (十回)

② 養護教諭部会 (六回)

③ 第四集編集委員会 (三回)

《令和五年度の取組》

一 足育研究推進園・推進校

令和五・六年度 足育研究推進園

千代田区立九段幼稚園

世田谷区立等々力中央保育園

令和五・六年度 足育研究推進校

練馬区立光が丘春の風小学校

二 出前授業 ○ 学校保健委員会 ☆

練馬区立光が丘春の風小学校 ○

中野区立西中野小学校 ○

朝霞市立朝霞第十小学校 ○

世田谷区立千歳台小学校 ○

愛知県岡崎市立福岡小学校 ○

狛江市立緑野小学校 ☆

杉並区立済美小学校足育DAY

三 発表や研修会など

JASPE足育研修会山口大会

全国保健主事会埼玉大会

足育出前授業レクチャー研修会

杉並区立済美小学校足育DAY

《JASPE足育 今後の活動》

一 足育の専門家の育成

JASPE足育マイスター制度
エビデンスに基づいた足育を推進し、正しい足育の普及を図るため、教育現場で足育の授業を実践できる教員の育成に取り組む。

二 足育の推進活動

① 中学校における足育の推進

② 幼稚園・保育園・こども園における足育の推進と実践

三 足育推進委員会

【委員長】
内木 勉・練馬区立光が丘春の風小学校校長

【副委員長】
難波誠二・杉並区立済美小学校校長

真砂野裕・昭島市立光華小学校校長

関口亮治・墨田区立第三寺島小学校校長

吉川則久・青梅立第五小学校主幹教諭

武田千恵子・足立区立足立小学校再任用主任教諭

【庶務部長】
小島大樹・調布市立八雲台小学校指導教諭

千葉富美江・小平市立小平第八小学校指導教諭

【推進委員】
濱田 哲・荒川区立尾久西小学校副校長

平 武史・台東区立平成小学校副校長

寺内周平・台東区立桜橋中学校副校長

富岡将人・足立区立西新井第二小学校副校長

梅林伸幸・杉並区立済美教育センター指導主事

岩田純一・墨田区立誠之小学校指導教諭

前村章太・台東区立根岸小学校主幹教諭

市川洋一・東村山市立八坂小学校主幹教諭

酒井慎一・昭島市立光華小学校主幹教諭

小井土円香・葛飾区立渋江小学校主幹教諭

山本志津子・大田区立馬込第二小学校主幹養護教諭

西島秀一・文京区立小日向台町小学校主任教諭

古屋知子・八王子市立第五小学校主任教諭

倉前広子・江戸川区立船堀幼稚園主任教諭

村瀬智美・世田谷区立千歳台小学校養護教諭

丸田樹理・連雀学園三鷹市立第六小学校養護教諭

伊藤瑞希・足立区立青井小学校養護教諭

小嶋博子・調布市立染地小学校養護教諭

高橋美帆・港区立港南小学校養護教諭

福井直美・十文字学園女大非常勤講師

木村恭子・千代田区立麴町幼稚園長

灰野芽生・目黒区立げっこうはら幼稚園教諭

秋元平良・特定非営利活動法人COLLECTIVE

敷田浩一郎・徳島県徳島市立徳島中学校教諭

福田一敏・徳島県美馬市立美馬中学校教諭

佐瀧昭博・徳島県吉野川市立鴨島東中学校教諭

神戸翔太・徳島県海陽町立栄喰中学校教諭

早川家正・日本教育シューズ協議会理事長

武原充宜・日本教育シューズ協議会理事

早川侍揮・日本教育シューズ協議会理事

【足育推進委員会顧問】
吉村眞由美・早稲田大学人間科学学術院招聘研究员

【足育推進委員会顧問】
科学学術院招聘研究员

同指導資料第四集に移行して約一年が経過した。初版一万部を用意したクリアファイルも、出前授業や各全国大会、講演会の盛況により残部も底をついている現在、デジタル化への移行を主軸とした本取組の現状報告を拙稿の趣旨とする。

【一 これまでの経過】

同指導資料第三集の発行（平成三十年十一月）から約五年が経過した昨年八月、デジタル化を目指した第四集初版が刊行された。（ちなみに、第三集は第七版まで発行を重ね、総発行部数は二六五〇〇部、配布数二五〇〇〇部となった。）

すでに刊行している第四集初版の主な改定点は次の四点であった。

①資料内容のデジタル化

コロナ禍、全国の学校でGIGAスクール構想が進行し、SNSによる情報が日常化していること等から、普及したい資料内容をデジタル化することとし

た。

②リーフレット化

「働き方改革」が進む教育界において、多忙な業務の中でも手に取りやすく、読みやすい（読みたくなる）資料提示のため、第四集はA4サイズ一枚表裏のリーフレットと考えている。

③小学生の一日をイラスト化

第四集も小学校教員を配布対象の中心と考え、リーフレットの内容は、小学校生活をイメージしたイラストで構成した。

④クリアファイルに収納

デザインにはJES製の靴をイラスト化し、裏面には、新たに作成した足の簡易計測シートを印刷した。このクリアファイルそのものが、JASPE足育の日常化や興味関心の喚起に一役担うことを意図した。

【二 今後の課題】

課題の主軸は、コンテンツのバージョンアップである。初版では、第三集の内容をPDF化し二次元コードで案内するところからスタートした。こ

のコンテンツをさらに動画にするなど、デジタル化の利点を生かすことに加え、新規取組も含めたエビデンス検証の二点が課題である。

【三 これからの方向性】

〈目的の再確認〉

この第四集改訂に向け、私たちはJASPE足育推進委員会では再度初心に立ち戻ることにした。第四集をなぜ作るのか、すなわち、目的の再確認である。私たちの目標は「足育を生活文化にすること」である。そのため、次の三点を重視する。

- 足育の認知度を上げていく
 - 足育の信頼度を上げていく
 - 足育の利便性を上げていく
- 特に、全国に広がっていく第四集においては、「信頼度」に重きを置いたエビデンスの重視と、デジタル化による「利便性」の重視が求められる。その二つの相乗効果としてJASPE足育の「認知度」を上げていきたいと考える。

この前提に立ち、次の二点について改訂を進めていく。

- ①資料のエビデンスを再検証
- ②動画データの作成

①資料のエビデンスを再検証

現在、コンテンツの抛り所としているのが、第三集の内容である。もちろん、当時として信頼できると判断した資料を活用してきたが、約十年前の発足当初の資料を継続してきた内容もあり、ここで出典の確認も含め、現在活用している第三集のデータすべてを検証し直す。この検証には、本委員会特別顧問であり、靴教育を専門とする早稲田大学招聘研究員の吉村眞由美先生、日本教育シューズ協議会理事長の早川家正氏にご協力を依頼した。

また、学校教育への位置付けを標榜してきた本委員会として、出前授業の内容（低中高等学校別）もすべて見直す。このためには、組織の再編成が必要となるため、一朝一夕にはなし得ない取組となる。

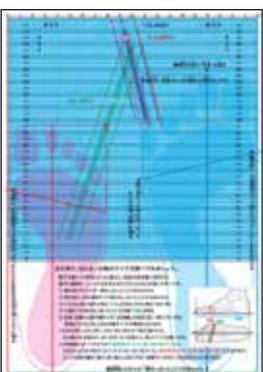
②動画データの作成

デジタル化を主軸とする第四集として、コンテンツの利便性

向上には、まだかなりの可能性がある。その中で、次の内容で動画作成をめざすこととする。

- 正しい靴の履き方
- 正しい靴サイズの測り方（簡易計測器版・クリアファイル版の二種）
- 「出前授業」の案内動画
- 「ギュッと足育」の案内動画
- 「足育講演会」の案内動画

「信頼度」と「利便性」に基づいた「認知度」を向上させ、足育が生活文化になる一助として、第四集の役割は大きいと考えている。



JASPE足育 マイスター制度スタート！

【JASPE足育マイスター制度の概要】

これまで「JASPE足育」は、日本学校体育研究連合会の委員会として、足育の普及、啓蒙活動を続けてきました。出前授業をはじめ、講演会や研修会を開催してきました。エビデンスに基づく足育の正しい知識や実践力を身に付けるべく、先生方をはじめ、子供たちに伝えてきました。

今年度より、より多くの先生方に足育の実践者となっていただけのように、JASPE足育マイスター制度を立ち上げました。正しい知識を身に付けた足育を実践する先生方を学体連が「足育マイスター」に認定いたします。

【STEP1 会員登録】

まず最初に会員登録することで、足指体操など教材ダウンロードや講義などコンテンツの視聴、簡易計測器の貸出などができるようになります。

興味がある方は、会員登録

フォームにアクセスし、リンク先の登録フォームに入力をお願いいたします。



JASPE 足育会員登録

JASPE 足育会員登録フォーム

<https://forms.gle/xc7xhWtcSFg55Dms8>

【STEP2 授業マイスター】

対象者を教員に限りませんが、希望される先生方には、会員登録後、講義や検定を受講いただき、定められた課題を提出していただきますと学体連よりJASPE足育「授業マイスター」として認定します。認定された先生は、JASPE足育推進委員と共に正しい足育の授業を実践することで、足育を広める役割を担うこととなります。

【STEP3 推進マイスター】

「授業マイスター」として実践を積み上げた先生には、さらにJASPE足育「推進マイスター」として、正しい足育の推進に向けて、児童だけでなく保護者、社会へと普及させるための講演等の講師を担うこととなります。

【足育の普及のため】

全国に広く正しく足育を普及させるため、一人でも多くの実践家の育成に一步踏み出したところでは、あなたも足育の実践家として、我々とともに足育の一步を踏み出しませんか。



STEP1
会員登録



STEP2
授業マイスター



STEP3
推進マイスター



幼児教育部

ただ今「足育絵本」 配付中！

「幼児期の足育の重要性を広げるために」

「ケンちゃんあしいくものがたり」をみらいにむかって「ゴ〜」を作成して一年。足育推進園研 究報告会や、幼児教育関係の研 究会などの機会に配付してきま した。幼児期からの足育の重要 性は少しずつ全国に広がってき ています。



【「足育絵本」の活用の仕方】

①ポイント1

子供たちの生活や遊びの中に見られる遊びや生活の実態からお話はスタートします。子供たちにも「足育」を身近に感じられるはずですよ。

②ポイント2

ベルトを左右に引つ張るだけで、簡単に足にフィットするダブルクロスベルトの履きやすい靴を紹介しました。片側マジックベルトの靴の場合もベルトをしつかり止めるように確認してください。

③ポイント3

リズムカルな履き方の合言葉で、正しい履き方が身につきます。「くつをひらいて、あしをいれたら、かかとをトントン、ぎゅー！べったん。」リズムを付けて読んでください。子供たちに分かりやすい言葉です。



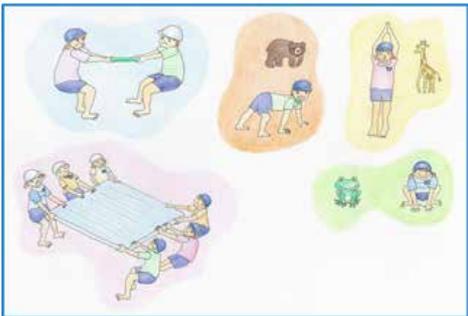
④ポイント4

「足育」に興味をもった保育者の方がすぐにできる、裸足でできる実践例をいくつか紹介しています。参考に取組んでみてください。

☆足の指でグーチョコキパー

☆裸足でゲーム遊び

☆動物に変身等



⑤ポイント5

靴を正しく履き、たくさん体を動かして遊び、足育を続けることが、健康な心と体の育成のもとになり、小学校教育での勉強や運動に主体的に取り組む姿につながります。主人公ケンちゃんの姿がモデルになり、未来に向かって歩んで欲しいと思います。

【絵本を活用した子供・保育者の感想より】

☆足育実践園ではケンちゃんが転んでいるところなど、身近な話にドキドキしながら聞いていました。「ケンちゃんダメだよ。僕はちゃんと履いている」「足指体操は園と同じだね」など話している子供もいて、普段から

の実践の成果を感じました。

☆未実施園では、「私の靴のベルトもギューってすれば大丈夫？」「足にピッタリってどんな感じかな？」と興味をもって聞いていました。

☆担任は「足育の活動例が分かりやすいので、やってみようと思います」「足育という言葉は聞いたことがありましたが、体

を心地よく動かすために必要なのだと分かりました。」「早速、靴の履き方から始めます！」等。日本中の幼児教育施設に「足育」が広まることに期待しています。

【片側マジックベルトの靴の場合の指導について】

この絵本では履きやすい「魔法の靴」JES足守シューズを紹介していますが、どんな靴でも「ベルトを止め、正しく履くこと」がわかるように、正しい靴の履き方と脱ぎ方の流れの図を追加しましたのでご活用ください。詳しくはホームページでご確認ください。

【足が変われば未来が変わる】

子供だけでなく保護者の方にも読んでいただき、足育の重要性を共有できるようにお願いいたします。

足が変われば子供が変わる。子供が変われば未来が変わる。心も体も健康でたくましい幼児の育成は幼児教育に関わるもの的心愿です。

令和五年度 JASPE 足育研修会（山口大会）

令和五年七月二十八日（金）

於 山口県健康づくりセンター

全国大会を翌年に控えた地域で夏季休業期間中に開催している JASPE 足育研修会が、山口県山口市で実施されましたので、その様子についてお伝えします。



主催者挨拶 日本学校体育研究連合会
会長 友添 秀則

「日本教育シューズ協議会と連携して、足育を進めてきました。私が子ども頃の頃に足育があったらなと思っております。足の教育はわざわざにされていた分野です。今日は先生方に授業等を体験していただきます。」



主催者挨拶 日本教育シューズ協議会
理事長 早川 家正

「皆さんに、お願いがあります。子どもたちの足や靴は大事ですが、今まで足や靴の教育を受けたことがないと思います。今は、幅の選べる靴もあります。ご自分の足育を、まずは始めていただければと思います。」



開催県挨拶 山口県学校体育研究連合会
会長 西川 孝文

「本県では、来年度全国大会があります。本日がその一歩目となればいいなと思っております。子どもたちの健康は喫緊の課題ですが、足に関する研修を受けたことはないと思いますので、理解を深めていききたいと思います。」



富岡委員による JASPE 足育の概要説明

【なぜ、今「足育なのか」】

JES が行った児童・生徒一万に対する足の調査から、四十三%の児童・生徒が何らかのトラブルがあることが分かった。子どもたちの足を、未来を変えていくために、足育を推進することとした。

【「足育」とは】

足育＝足元からの健康教育
「足育」を通して、自分の体に気付き、健康な生き方について学ぶ力を育てる。

【足育の授業モデル】

足育の学習の基本的な流れを課題解決的な学習となるよう、「そうか！ そうだ！ そうしよう！」の三つのステップで考えたい。各学年の学習指導案につい

ては、足育のホームページに掲載している。

【指導内容を実際に体験】



秋元委員による模擬授業の様子

① 模擬授業

五年生「健康に過ごすために」健康に過ごすためには、「正しく靴を履くこと」「足に合ったサイズの靴を履くこと」を確認した上で、正しい靴の履き方を体験したり、JASPE 足育のクリアファイルを使って足を



参加者同士での足計測

計測したりした。
②ギョツと足育
短時間で実施できるギョツと足育を実施した。
③足指体操
参加者実際に足指体操を体験してもらった。



武田委員による足指体操

④ 幼児教育 足育絵本紹介

幼児への足育として、絵本を使った実践事例について紹介した。



福井委員による足育絵本の紹介

講演 「シユエエデユケーション®最新情報二〇二二夏
 ↳時代に即した教育のヒント」

(公財) 日本学校体育研究連合会 JASPE 足育事業 特別顧問
 早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員博士 (学術)

吉村 眞由美先生



・はだしの教育
 ・靴を履かなければならない教育に：

○日本人のファーストシューズ

・昔は「じょじょ」
 ・つま先をとんとんして履く
 ・第二次世界大戦後に靴へと変化
 ↓過去に日本には靴教育はなかった

○生まれたばかりは軟骨のみ

・六〜七歳までは柔らかい骨で構成されている部分が多い(固まりきっていない)
 ↓この時までには正しく靴を履けるとよい

○足が痛くなり整形にかかったスポーツ選手の事例

・靴を診断すると：不自然なすり減りを起こしている

○もつたないサイクルの弊害

・大きいサイズを買ってしまった
 う：

○右足のみ減ってしまった靴の事例

・上から見てもよくわからな
 いが：横から見るとすり減りがわかる

↓かかとトントンし、ひもをしつかり締めると症状がよくなった

○スキヤモンの発達曲線をつ

↓靴がそろうと心もそろ

かつて

・神経系の発達するときに「気持ちよく靴を履く方法を身に付ける」ことが大切
 ・靴教育で見られる効果
 ↓運動パフォーマンスの向上

↓靴の機能性を生かせる

↓転倒・ケガの予防

↓緊急時の安全確保

○靴の履き心地は：

・一歳の頃に芽生え、六歳ごろに決定されていく

↓このころに大きめの靴を履き続けると、大きめの靴が「快適」と認識してしまう。

・子どもへの声かけ

↓かかとトントンの体験をぜひ行ってほしい

○身近なところに教材・教具

が！
 ・指導者もぜひ子供たちと同じ上履きを！

・履き方指導もしやすい

・上履きにかける値段と普段履きの靴の価格差：

・正しい履き方は教材

・正しい上履きを知る

○指導者として：

・正しい履き方を知る
 ・指導方法を知る

・靴箱を見てほしい

↓靴がそろうと心もそろ

↳質疑応答

○今日の学び・感想

○自身の職場での問題点

○これからのアイデア

Q：海外での靴教育の現状は

A：ドイツでは靴選びを保護者・靴屋で行っており、採算を度返ししている。

↓靴に対してのポリシーが日本にないのでは

Q：兄弟での共有はよいのか

A：おさがりは問題ない。(すぐくゆがんでいたり、穴が開いたりしている場合を除く)

Q：長靴を好んではく子供はい

A：一時的なものなので大丈夫

Q：左右反対に履くことが多い

A：マジックテープを外しては

いておくとわかりやすい。(衛生面でも効果的)

Q：靴下を履かないことについて

A：靴下は「足のパンツ」。汗

を吸収してくれるなどの効果がある。靴を履いた時にはぜひ靴下を履かせたい。

○自己紹介

○伯桜鵬について

・鳥取県 倉吉幼稚園の時から足育を行っていた

・靴の履き方の指導

・母が倉吉幼稚園の保育士

・継続して足育を「あたりまえ」にしていきたい

○足育の背景と諸問題

・子どもたちの運動能力
 ↓子どもたちの持っている力

↓子どもたちの周りの環境

○力を発揮させる環境

・三つの問(サンマ)

○靴に関する教育がなかったのでは？

○今の子ども靴の現状

・今の靴がだめなのではなく、もつといい靴があるのでは。また履き方ができるのでは？

・TPOにおける靴の選択が必要では

↓生活に合った靴を

○JASPE足育の活動について

・足元からの健康づくり

○足育

・足をより良い状態に保つための生活の仕方

○靴教育

・靴の機能や働きを知って、靴の選び方、履き方を身に付けさせる

↓上記の二つが相まって子どもたちのウェルビーイングを目指す

・様々な足育教室が存在している

↓商業的な要素が強いものがある

○日本の足の教育の歴史は古い

○スキヤモンの発達曲線をつ

本校は令和五年度より、公益財団法人日本学校体育研究連合会の指定を受け、足元からの健康教育「足育」に取り組んでいる。

【推進校としての取組】

①教職員への足育研修会実施
推進校としての第一歩として、

教職員に足育を知ってもらうため、理解を深めてもらうために、令和四年二月に、足育に関する研修会を実施した。研修会では、児童の足の実態やその課題から、足育がなぜ必要なのかを学ぶとともに、普段から感じている足や靴についての疑問や不安を出し合い、足育への関心を深めることができた。

②保護者への足育の啓発

足育を推進していくためには、保護者・家庭の協力を得ることが大切である。そのスタートとして保教の会（本校の保護者組織）の運営委員を対象として足育のレクチャーを令和四年二月に実施し、発育期の足育の大切

さを理解してもらおうとともに、令和五年度から行う全児童への上履きの貸与等について意見交換をし、保護者の意識やニーズについて確認することができた。また、保護者へ向けて「足育だより」を発行し、足育に取り組むことの周知、子供の足と靴の実態や課題、全児童への上履き貸与の周知、上履きの記名やサイズの再計測等を伝えることで、保護者・家庭の足の健康への関心を高めている。



④全教職員・全児童への上履きの貸与

自分の足に合った上履きを令和五年四月から全児童へ貸与できるように、令和四年三月、全教職員・全児童を対象に、簡易足計測器を使って足長及び足幅を計測しフィッティングを実施し、上履きの貸与を進めた。新年度入学予定の新一年生については、令和四年二月に実施した新一年生保護者会で足育について

説明し、春季休業中に足の計測とフィッティングを実施し貸与を行った。



⑤正しい靴の履き方の指導

年度当初の全校朝会にて、正しい靴の履き方と脱ぎ方、なぜそれが大切なのか等、足育についての講話を実施した。「ベリベリ・トントン・ギュー・ピタ」を靴の履き方の合言葉として繰り返し話す中で、ベルトをしつかり外して履く児童や、かかとトントンで、靴のつま先側に足指が十分動かせるゆとりを作ることなどが定着してきている。

⑥足育旬間の設定と取組

六月に足育旬間を設定し、登校時の声かけや、全校朝会での足育講話に取り組んでいる。また、足育旬間に合わせ、足育に関する校内掲示を作成し、子供たちの足や靴への意識を高

め、足育の日常化へつなげられるよう取り組んでいる。



⑦児童・保護者への実態調査

六月の足育旬間に合わせ、全校児童の外履きの形状や履き方についての実態調査を実施した。また、九月以降、「靴に関する意識調査」、足育調査研究委員会作成の「足についてのアンケート」を全校で実施し、児

外履きの紐靴等の実態
単位：%

%	ひも	ベルト	なし
1年	0	91	9
2年	14	84	2
3年	8	87	5
4年	23	72	5
5年	36	56	8
6年	57	34	9
全体	23%	71%	6%

童や保護者の意識や実態について分析していく予定である。

⑧全学年・学級での足育授業

六月から二月までの土曜授業において全学年・全学級（特別支援学級を含む）を実施し、児童・保護者への足育の日常化へつなげていきたい。令和五年度においては、JASPE足育推進委員の協力を仰ぎ、出前授業を中心に実施し、次年度に向けた積み上げとしていきたい。



JASPE 足育研究推進園 千代田区立九段幼稚園

本園は、今年度より足育研究推進園として指定を受け、四月より取り組んでまいりました。子どもたちの変容等、成果が見られるよう、また、令和六年度に、実践の報告を行えるよう、保護者の皆様にもご理解・ご協力をいただきながら、推進してまいります。

【本園の概要】

本園は、千代田区の皇居に近い場所に位置し、都会の中でも緑に恵まれた環境で、周囲には私立小学校、高等学校、大学、大使館などがあります。また、古くから商店街が形成され、史跡なども点在しています。落ち



着いた雰囲気の中で、人・自然・文化が調和された美しい環境にあります。

創立から数えると、今年で九十三年になります。途中、何度か園名を変更しているため、現在の園になり、同じ施設内の九段小学校と共に、今年で開校・開園三十周年を迎えました。

現在、在園されている家庭は、教育熱心で、大変協力的で、PTA活動も充実しています。

【本園の教育目標】

○げんきな子

自ら進んで環境に関わり頭と心を働かせ体を使って活動する子

○やさしい子

自分の事として考えを巡らせ思いを馳せ思いやっって行動する子

○工夫する子

興味・関心をもったことに想像を膨らませ創造して表現する子

と、三つの教育目標を設定し、幼児が、安心できる環境の中で、健やかな心や体を育めるよう、取り組んでいます。特に、小学校と併設である利点を生かし、広い校庭や体育館を活用して、伸び伸びと体を動かし充実感を味わえるよう、また、狭いながらも自然豊かな園庭や隣接の公園も活用し、想像を膨らませ、じつくりと、また友達と協働的に遊ぶことを楽しめるよう、

様々な環境をその場の特色を生かして有効に活用できるように工夫して取り組んでいます。



【心身の健康に関わる取組】

本園は、令和三年度まで「心も体も元気な九段の子」という研究主題の下、意欲的に運動遊びに取り組むための環境や援助について、さらに、運動遊びでの経験や育ちを様々な活動へ生かしていくための環境や援助について考え、見直してきました。また、今ある環境の中で、子どもたちが経験している多様な動きを場や遊具ごとに整理し、子どもたちの経験していること、どのような力が身に付くかなどについて実践事例を通して話し合い、冊子にまとめました。また、運動遊びの講師を招聘し、子どもたちへの指導と共に、教員が研修を受け、日常の保育の

中で継続的に、幼児が自ら進んで体を動かすことの楽しさを感じられるよう取り組んでいます。昨年度からは、区内全ての幼稚園・小学校でコーデイネーション・トレーニングを取り入れ、体力や運動能力の向上とともに、脳と体と心を働かせ、学びに向かう力を育むことを目指して取り組んでまいりました。

【体力・運動能力に関わる現状】

前述のような取組をする中で、子どもたちは、園舎の一階と二階を行き来しながら、校庭や体育館、遊戯室など体を思い切り動かせる場、また、巧技台やゲームボックスなどの遊具や、園庭の固定遊具などを上手に使いながら、様々な動きを楽しんでいます。しかし、一日の中で、ちょっとしたケガ、特につまずいたり、転んだりなど足を介するケガをする割合が多いこと、また、すぐに「疲れた」という幼児も少なくないという実態が見られました。また、五歳児を対象に行う運動能力調査を、本区は毎年、独自に行っていますが、平成二十九年度を境に、徐々に東京都の平均よりも下回る傾向が見られるようになり、コロナ禍をきっかけに、急速に下回るようになってきました。

そこで今年度、足育を通して幼児の体力・運動能力の向上を図れないかと考えました。

【今年度の取組】

教職員が足育についての正しい知識を得られるよう、先行研究の冊子等を共有し、学ぶと共に、講師に早稲田大学人間科学学術院招聘研究員 吉村真由美先生をお招きし、教職員向けの研修会と、保護者向けの足育学習会を行いました。保育の中では、靴の履き方の指導と共に、足指体操なども徐々に行っています。

教員と保護者の意識が変わること、子どもたちの足についての意識が変わり、体を動かすことへの意欲が高まり、また、足元からの健康づくりに必要な習慣や態度の素地が身に付くよう取り組んでまいります。



JASPE 足育研究推進園 世田谷区立等々力中央保育園

今年度からの二年間、保育園として初めてJASPE足育研究推進園の指定を受け、子どもたちの健やかな育ちを足元から支えるための取組を行っています。

【本園の概要】

本園は、奥沢西保育園と深沢保育園の二園が移設・統合し、今年度の七月に開設。○歳児〜五歳児までのお子さんをお預かりしています。九月からは、園併設のおでかけひろばの開設、医療的ケア児の受け入れも行うなど、世田谷区玉川地域の拠点園として、地域の子育て支援の中核を担っています。

【これまでの靴教育の取組】

統合前の深沢保育園では、平成三年度から、靴教育の第一人者である吉村真由美先生（早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員）に指導を仰ぎ、「正しいサイズの靴を正しく履く」靴教育に取り組んでいます。

保育園では長い時間お子さんをお預かりします。子どもたちは園にいる大半の時間、上履きや外靴を履いて過ごするため、足に合った靴の用意や、その履き方が重要だと考えています。

靴教育を始めたばかりの頃は、

ほとんどのお子さんが靴ベルトのマジックテープを外さずに脱ぎ履きしていました。正しい脱ぎ履きの仕方を知らせていくことで、ベルトを着脱することが当たり前になり、正しく履くと「足が軽い」「速く走れる」などの声が聞かれるようになりました。

保護者に向けても足サイズの確認の仕方や靴の選び方などを知らせるべくお便りの発行、講座の開催などの啓発を行ってききましたが、興味関心や意識には個人差がありました。また家庭で用意する子どもの靴も多種多様で、それぞれの靴の特徴に合わせた履き方を知らせる必要があります。集団保育の中で履き方指導をするにあたり、難しさがありました。



令和三年度からの二周年は、日本教育シューズ協議会理事長の早川様の協力を得て、幼児クラスにダブルベルトの足守ATM一三二〇を貸与していただき、保育士と子どもが同じタイプの靴を履いての靴教育を始めました。

吉村先生に定期的に履き方指導や履き方確認をしていただく

とともに、園内研修のテーマの一つに「靴教育」を取り入れ、年間のねらいをもつて子どもや保護者への啓発を行い、一〜三か月に一回、園で足の計測をし、足の成長に合わせて適宜靴のサイズアップをしていきました。

貸与が開始されると、子どもたちは「緒だねー」「私も同じ」と靴を見せ合いながら嬉しそうに履いたり、正しく履けている子どもも同士で確認したりする姿も見られるようになりました。

保育士も子どもと同じ靴を履くことで、履き方の手本を見せることができ、みんなが同じ靴を履いているため、靴の履き方指導が格段にしやすくなりました。

また、靴を正しく履いて生活していくことで「転びにくくなった」「姿勢がよくなった」「歩いていて靴が脱げる子がいなくなった」「長く歩いても疲れにくくなった」など、子どもの姿にも変化が見られています。

【足育推進研究園として】

日本教育シューズ協議会から靴の貸与を受けた二周年は、新型コロナウイルス流行の真只中で、思うように靴教育をすすめることができなかったところがありました。今後の靴教育をどうすすめていくか、悩んでいた時に、日本学校体育研究連合会より足育推進研究園として同じ靴の貸与が継続可能とのお話をいただく

き、園としては正に渡りに船で指定を受けさせていただきます。園の統合に向け、数年前から保育のすり合わせを行う中で、奥沢西保育園の職員からも靴教育への賛同を得ていたため、どちらの園でも力を入れていた《運動あそび》と《靴教育》の二つを、新たに誕生する等々力中央保育園の特色として掲げ、力を入れていくことにしました。

令和四年度からは、奥沢西保育園でも、保育士への靴教育研修を行ったり、保護者会を活用して保護者に靴選びについての啓発を行ったりしてきました。



【今年度の取組について】

令和五年六月に二園の引越があったため、深沢保育園の子どもたちには貸与の靴を履いての靴教育を継続していましたが、奥沢西保育園の子どもたちへの靴の貸与は、引越や統合がひと段落した七月末に行い、八月から等々力中央保育園として「靴教育」を開始しました。

靴の貸与を受けられる二周年で、子どもやその保護者が、靴の正しいサイズ選びや履き方・履

かせ方を習得し、貸与を受けなくても正しいサイズの靴が選べ、正しい履き方が身につくことを目指し、

①子どもたちの靴の履き方を日々確認し、履き方を知らせ、正しい履き方が身につくようにする。

②年齢にあった運動あそびを積極的に行う。特に裸足での足指あそびを取り入れ、足の感覚を育てる。

③保護者に靴の正しい知識や情報を知らせるとともに、定期的に子どもの足を確認する習慣や子どもの足に合った靴を選べるようになってもらう。

現在靴の貸与を受けているのは幼児クラスですが、乳児期の子どもが靴を履き始める時期にこそ、周囲の大人が正しい知識をもつて子どもの足に合った靴を選び、日々正しく履かせていくことが大事だと考えています。

乳児の靴教育にも着目し、保護者とともに子どもの健やかな成長のために取り組んでいきます。



【一 はじめに】

本園は、平成三十年度・令和元年度に、公益財団法人日本学校体育研究連合会より、JASPE 足育推進事業の推進園の指定を受け、実践報告会を行いました。その後、令和二年度からは、それまでの研究の成果を活かして足元からの健康を促すとともに、足育調査研究協力園として、課題の解決に向けた足育研究と日々の実践を継続しています。

【二 教材としての靴の使用】

研究の一環として、JES 日本教育シューズ協議会の協力のもと、貸与してもらった上履きや外靴を教材として使っています。この靴は脱ぎ履きの際に、両手を使ってベルトを緩めたり絞めたりする構造です。特に上履きは、研究の過程で園児や教師の意見を反映してもらい、ベルトの両端やかかとの輪の部分に色を付けてあります。

幼児が脱ぎ履きする際に、自分で正しい履き方を身に付け、



幼児への貸与靴（外靴、上履き）

教師がアドバイスすることを補助するために、ベルトの左右は赤と青、靴の要であるかかとは黄色に色付けをしております。

【三 足測定とフィッティング】

また、新たに貸与が始まる学年には、JES 日本教育シューズ協議会の理事長 早川家正氏に來園していただき、簡易計測



昨年末、3歳児の計測とフィッティングの様子

器を使って幼児の足サイズを測定してもらっています。正確なサイズを測定し、フィッティングもすることで、幼児一人一人に合わせた靴を貸与できるようにしています。

【四 正しい靴の履き方の指導】

貸与後は、全体に正しい靴の履き方を知らせたり、実際に靴を着脱する場面で個別に履き方を確認したりして、正しい靴の履き方の定着を図っています。

幼児が正しく靴を履くための工夫として「ベリベリ、トントン、ギュー、ピタッ!」という合言葉を使っています。「マジックテープをベリベリと外して履き口を広げて足を入れる」、「かかとをトントンとならし、靴に足をフィットさせる」、「両手でマジックテープを左右にギューと引っ張ってピタッと留める」という一連の流れが、幼児に分かりやすいようにしています。

【五 保護者への発信】

足育を進めていくためには、保護者の理解が欠かせません。そのために、園のホームページに「青南足育研究所」と題したページを作成し、足育研究の取

り組みについて紹介し、日本学校体育研究連合会のホームページへのリンクを貼って、関連した資料を見られるようにしています。



保護者向けの足育講演会

また、昨年は、子どもたちの足測定の後、保護者向けに足育ミニ講演会を実施しました。参加者は熱心に話を聞いてくれ、質問コーナーでは次々と手が挙がり時間が足りないほどでした。今年度も、園だよりで足育について取り上げ、保護者会では資料とともに足育の意味や正しい靴の履き方を改めて知らせることで、保護者の理解をより深めていけるようにしています。

【六 おわりに】

教師も日頃から幼児と同じ型の上履きを履くようにしている

ことで、生活の中で丁寧な靴の脱ぎ履きを幼児と一緒に意識することにつながっています。教師自身が足育の大切さを理解し、折に触れて適切な指導を繰り返すことで、幼児は足に合った靴の感覚や正しい靴の履き方を身に付けてきています。



靴の脱ぎ履きは日々何度も繰り返す行いです。そのような気ない小さなことを丁寧に行うことは、幼児がいろいろな物とどのように関わるかにもつながることだと考えています。今後も、足育の実践を継続して、子どもたちに健康な体とともに豊かな心も育てていきたいと思っています。

本校は令和二年度より、公益財団法人日本学校体育研究連合会の指定を受け、足育研究推進校に二年半取り組み、令和五年度に足育調査研究協力校として足からの健康教育に取り組んでいる。



◆本校の取組

①全児童への上履き貸与と正しい靴の履き方の指導

JASPE日本教育シューズ協議会の協力のもと、簡易足計測器を使い全児童の足長及び足幅を計測し、令和三年四月から自分の足に合った上履きの貸与を二年間継続した。毎年各学期の始めには、全校朝会で正しい靴の履き方を指導し靴のつま先側に足指が十分動かせるゆとりをつくることの大切さを理解させ、履き方の合言葉「ベリベリ・トントン・ギュー・ピタ」を普及させてきた。また、児童の様子から履き方向様に脱ぎ方指導も重要であることが分かった。ベルトを外し靴箱にしまうことが踵を踏むことなく足を靴に入れ正しくベルトを締めることにつながる。また、本校では昇降口にミニベンチを設置し座った

状態で両手を使い正しい靴の履き方ができるようにしている。更に上履きのサイズ変更の際には児童の上履きの踵のつぶれなど使用状況を確認し、正しい履き方について個別指導をしている。日々の学校生活の中で、正しい履き方や脱ぎ方について教員が継続して声をかけ、児童の実践力を育てていくことが大切だと考える。

②足育月間の設定と取り組み

学期ごとに一カ月の足育月間を設定し、全校朝会で「足の骨について」や「土踏まずの働き」などクイズを交えながら講話し、児童の足への関心を高めている。この期間には、全校朝会で土踏まずの成長を促す「足指体操」も紹介し、児童に継続的に取り組ませている。足指体操カードを配布し、各家庭で取り組ませ

ることで、保護者への足育啓発にもつなげている。また、六月には本校の全面芝生校庭を活用し「はだして遊ぶう月間」を設定している。はだして遊ぶことは足指を十分に動かすことや足裏への刺激を与えることにつながり、土踏まずの形成にも役立つと考えている。



③足育授業の保護者への公開と足育講演会の開催

令和四年度から二学期の学校公開日に全学級が足育授業の公開を実施している。一・二年は「正しい靴の履き方や脱ぎ方」三・四年は「土踏まずの大切さ」五・六年は「自分の足に合った靴の選び方」の授業を公開する。さらに公開授業後には、早稲田大学招聘研究員の吉村眞由美氏による足育講演会とJASPE足育推進委員の協力による保護

者対象の足の計測を実施し、保護者に正しいサイズの靴を正しく履くことの大切さを理解してもらっている。



◆足育についての児童の意識調査の結果

本校では、令和三年より毎年足育調査研究委員作成の「足についてのアンケート」を実施し児童の意識の変容を調べている。以下は令和三年七月実施の結果と令和五年七月実施の結果について変容のあった質問項目である。

まず、「靴の履き方に気を付けているか」の質問項目では、「気を付けている」と回答した児童の割合が八〇・一％（R三比十二一・五pt）に増えた。その理由についての質問では、「自分で考えて」が六五・四％（R三比十二四・三pt）であり、「親

に言われて」八・二％「先生に言われて」二六・四％を上回っている。自分から考えて正しい履き方を行っている児童が年々増えていることが分かる。また、「靴箱へのしまい方」の質問では、「そろえている」八四・七％（R三比十六九・五pt）に増加し、靴の履き方と同時に靴を大切に扱う意識も育ってきている。

課題としては、「足の長さを知っているか」の質問で「知っている」と回答した児童が四二・九％（R三比十〇・六pt）とほとんど増えていない。特に高学年については、今後自分の足に合った靴を選択できるように、足の長さについて知る必要があると考える。

今後も足育調査研究協力校として、足育授業を続けながら、自らの足に関心をもち、正しいサイズの靴を正しく履く実践的態度を育てていく。



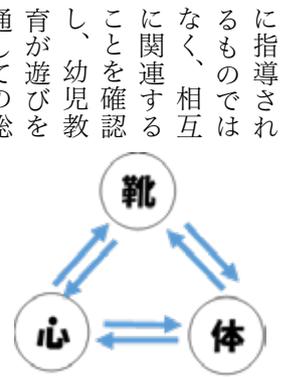
本園は、令和二年度から令和四年度まで、JASPE足育推進園の指定を受けて研究に取り組み、令和四年十二月十二日には、実践報告を行った。

今年度も、研究主題「心も体もたくましい幼児を育てる」幼児の『やってみよう』を引き出すために「靴」は継続し、研究をさらに深めている。

【昨年度の成果と今年度の研究の視点】

○着実で丁寧な指導の積み重ねにより、靴の正しい履き方や、靴を正しく履き直して気持ちを切り替えて活動に取り組むことなどが定着した。このことから、教員自身が「やってみよう」という気持ちで足育への意識を高め、積極的に教員同士で話し合うなどして工夫・改善を図りながら指導実践を重ねることの重要性が分かった。今後は、指導の継続と、さらなる定着へ向けた工夫・改善について追究する必要がある。

○「靴」「心」「体」の三つの視点を設け、週案の中で視点を沿ってPDCAを循環させたことで丁寧な振り返りと指導改善が図られた。また、この三点が個別



に指導されるものではなく、相互に関連することを確認し、幼児教育が遊びを通しての総合的な指導であることを再認識した。一方で、三つの視点で週案を作成する難しさも感じることもあったため、三つの視点の活用方法や週案の形式を検討・改善する必要がある。

○幼児の「やってみよう」を引き出す援助をキーワードにし、「やってみようポイント」としてまとめたことは、援助を考える上で有効であった。また、特にイメージの世界を生かした援助は効果的であることが明らかになった。今後は「やってみようポイント」を精選し、イメージの世界と「やってみようポイント」を活用した指導の充実を図る必要がある。

○積極的な情報発信の工夫を図ることにより、足育や生活習慣への保護者の意識が高まった。このことは幼児の育ちに大きく関わるため、園教育を保護者と共有し、連携して進めていく必要がある。

【今年度の取組】

一 幼児の意欲の向上を目指した指導の工夫・改善

《取組①》 設定された活動における幼児の意欲の向上は見られるが、日常的な生活における意欲面には課題がある。そこで、週案立案の際に、「前週の幼児の姿」を振り返る際に「靴」「心」「体」の三つの視点を、「教師の援助と環境構成」を考える際に「やってみようポイント」を活用して、指導の工夫・改善を図る。

《取組②》 幼児期の特性を生かし、イメージの世界を生かした指導実践を継続する。また、異年齢での関わりを意図的に計画的に設ける。

《取組③》 JASPE足育事業特別顧問 早稲田大学人間科学術院招聘研究員 吉村真由美先生を招聘し、指導を仰ぐ。

《取組④》 これまでの研究成果を着実な指導実践として継続するために、研究内容を盛り込んだ指導計画を作成する。

二 足育の継続と「足育の日」の設定

《取組①》 「靴びったり体操」の作成など、靴の正しい履き方の定着を図るための指導を継続・改善する。また、学期に一度、「足博士」がフットプリントをとる機会をつくり、足の育ちや変容を追うとともに、幼児自身の足への興味や関心を高める。

《取組②》 毎月十二日を「足育の日」と設定し、足に関連した活動を三学年共通に行う。

《取組③》 一日三十分以上の運動的な遊びや足遊び、裸足遊びを工夫して取り入れることを継続して行う。



三 多様な動きを経験できる運動遊び等の開発

《取組①》 幼児の多様な動きを引き出す運動的な遊びの開発や、意図的・計画的な環境構成・再構成を丁寧かつ積極的に行う。

《取組②》 幼児の多様な動きを引き出すための園内環境や校庭、体育館等の活用の工夫を図る。

《取組③》 正しい座り方は基本的にな体づくりにつながると考え、教材開発を行う。



四 保護者等への情報発信

《取組①》 保護者参加行事において、親子でイメージの世界を楽しみながら様々な体の動きを経験できる運動遊びや足遊びを取り入れる。また、定期的に幼児のフットプリントを見ながら足育の取組を伝えたりする機会を設け、親子で楽しく足育に取り組めるよう、理解・協力を得る。

《取組②》 目黒区の事業である「めぐろ ここカラダシート」を

活用した本園の特別チャレンジの活用方法の充実を図る。

《取組③》 日本学校体育研究連合会参加 福井直美先生を招聘し、保護者に向け、「子どもの心と体を育てる足育について」ご講演をいただき、足育の重要性への理解を深める。



【現在の課題】

○本研究成果を園の特色とし、幼児の「やってみよう」を引き出せる楽しく効果的な指導として、分かりやすく、取り組みやすい指導計画として残していきたい。

○靴の貸与は終了したが、足育を推進するにあたり、継続して「WMN足守スクールシューズ」を園の推奨靴として、使用することについて保護者の理解を図り、その意義を、定期的かつ効果的に啓発する必要がある。

○教員間で積極的に本研究における幼児の実態把握や、指導の工夫・改善をし、情報共有や話し合う時間を捻出し、園全体で検討共有を行う必要がある。

令和4年度 個人賛助会員

個人賛助会員 (10,000円)

北海道	駒込 幸則
青森県	角田 正美
岩手県	佐々木 浮子
	西郷 晃
	日野澤 明彦
秋田県	小玉 史男
山形県	佐藤 裕恒
福島県	鈴木 義祐
茨城県	國府田 薫
	村山 亮
埼玉県	薬師寺将司*
	矢嶋 正俊
	堺 数太
	高橋 利明
	中嶋 圭一郎
千葉県	内山 俊雄
	黒川 康宏
	伊藤 政利
東京都	荻原 誠
	山崎 隆
	高草木 政浩
	藤原 和彦

東京都	大塚 洋一
	中村 辰雄
神奈川県	今井 勝明
新潟県	西本 直志
	中村 祐一
石川県	島倉 晴信
	内田 圭志
長野県	海野 善弘
岐阜県	村上 克
	中村 好一
	松尾 祐治
静岡県	中村 孝夫
	大倉 浩
愛知県	鵜飼 克博
	佐宗 敏久
	吉田 雅仁
三重県	小山 和彦
滋賀県	野村 智洋
大阪府	橋本 早智子
	北村 洋介
兵庫県	松岡 準人
	川崎 芳徳

奈良県	北林 佳樹
岡山県	山神 勝昭
広島県	川中 昌樹
徳島県	沖野 真実
福岡県	石堂 昌彦
佐賀県	福井 宏和
	島 一満
	吉田 智博
熊本県	信國 満徳
大分	牧野 新吾
鹿児島県	伊地知 裕
沖縄県	横田 恵
	東江 功子

* 20,000円

児島株式会社
JES 日本教育シューズ協議会
株式会社Gakken
株式会社大修館書店
フットマーク株式会社
株式会社ギムニク
株式会社ミカサ
株式会社グリップメソッド
教育シューズ振興会・日進ゴム株式会社
学校体育シューズ研究会（株式会社アスティコ・協和株式会社）
株式会社エービーシー商会
株式会社第一学習社
株式会社光文書院
東京書籍株式会社
セノー株式会社
あかつき教育図書株式会社
株式会社三和製作所
ブランロッシュ株式会社
株式会社こども体育研究所
ミズノ株式会社
株式会社エバニュー
株式会社正進社
株式会社東洋館出版社
プラス株式会社ジョイントテックスカンパニー
一般社団法人あそび庁

〈大会協賛企業〉

東武トップツアーズ株式会社

本財団事業は「公益信託日本教育シューズ学校体育振興基金」から
助成を受けております

gymnic®

THE WAY TO MOVE



www.gymnic.com



公益財団法人 日本学校体育研究連合会 優良体育用品

空気を入れないハンドボール



重量約150g

ネーム可

SD10-YBL/YLG/YP **¥2,300** (税込¥2,530)

【スマイルドッジボール1号】

●スポンジ(EVA) ●円周約59cm ●推奨内圧0.10-0.15kgf/cm² ●タイ製



小学生低学年

HBO

¥2,300 (税込¥2,530)

【ハンドボール0号】

●手縫い、人工皮革、ソフトタイプ ●円周約47cm
●パキスタン製

RKU BASKETBALL LAB 共同開発



重量約430g

ネーム可

SB612-OBL **¥3,300** (税込¥3,630)

【スマイルバスケット6号】

●スポンジ(EVA) ●円周約73cm、推奨内圧0.20~0.25kgf/cm² ●タイ製

セストボール



重量約240g

ネーム可

SC-YPLG **¥2,400** (税込¥2,640)

【セストボール】

小学生 ●スポンジ(EVA)、推奨内圧0.2~0.25kgf/cm²、円周64.5~66.5cm ●タイ製

ブレルボール



重量約210g

ネーム可

SP-OYLG **¥2,700** (税込¥2,970)

【ブレルボール】

小学生 ●円周約62cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
●タイ製/カンボジア製



重量約280g

小学生全館 ネーム可

SF428-WBK **¥2,800** (税込¥3,080)

【スマイルサッカー4号】

●円周約65cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
●柔らかさと使用感をバランスさせたスマイルサッカーボール ●タイ製



重量約260g

小学生低学年 ネーム可

SF326-WBK **¥2,700** (税込¥2,970)

【スマイルサッカー3号】

●円周約59cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.15-0.20kgf/cm²
●柔らかさと使用感をバランスさせたスマイルサッカーボール ●タイ製

空気を入れない フットサル



重量約260g

ネーム可

SFLL3-Y/P **¥3,400** (税込¥3,740)

【スマイルフットサル3号】

●円周約59cm、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.10-0.15kgf/cm² ●3号サイズによる重量約260gのスマイルフットサルボール ●タイ製



重量約300g

FLL300-WBY **¥2,300** (税込¥2,530)

【ソフトタイプフットサル】

小学生 ●縫い、人工皮革、ソフトタイプ、重量約300g
●円周約59cm ●パキスタン製



重量約290g

TRS-Y **¥2,200** (税込¥2,420)

【スマイル タグラグビーボール】

小学生 ●縫い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.20-0.30kgf/cm² ●円周68.5~70.5x51~53cm
●重量約290g ●グリップ性があり、握りやすい。 ●4号 ●中国製



FFF-Y/BL **¥1,500** (税込¥1,650)

【フラッグフットボール用フラッグ 1セット】

●フラッグ 縦32x横32cm、ベルト長89x幅2.5cm ●フラッグ:ポリエステル、ベルト:ポリエステル
●セット内容 フラッグ×2枚、ベルト×1本 ●マジックテープで簡単装着 ●中国製

FFF10-Y/BL **¥13,800** (税込¥15,180) 10セット

【フラッグフットボール用フラッグ 10セット】

●セット内容 フラッグ×20枚、ベルト×10本



重量約150g

FF-YBL **¥1,500** (税込¥1,650)

【フラッグフットボール】

小学生 ●縫い、スポンジ(TPE)、推奨内圧0.07kgf/cm²
●円周52~54x38~40cm、重量約150g ●中国製



重量約150g

KR-Y **¥2,000** (税込¥2,220)

【スマイル ラグビーボール】

小学生 ●縫い、スポンジ(EVA)、推奨内圧0.07kgf/cm² ●円周52~54x38~40cm
●重量約150g ●中国製

自治体・学校・体育施設・プロスポーツ施設・ スポーツクラブなど、北海道から沖縄まで 全国の多くの施設で導入いただいています。

NONSLIP SERIES

体育館床面専用メンテナンス剤

ノンワックス・
水分不使用

安全性

学校環境衛生基準・
食品衛生法基準をクリア

下処理なしで塗布可能

簡単

バスケットコート2面
(当社施工)を
1時間以内に塗布可能



メンテナンスクリーナー
¥52,000(税別)



ノンスリップ
¥62,000(税別)



ノンスリップハイパー
¥86,000(税別)

驚異のグリップ力回復

高性能

ウレタン樹脂塗装と同等
滑り抵抗係数
+0.3以上回復 ※

コストは1/10以下

低コスト

ウレタン樹脂塗装に
かかる費用(当社比)

※NONSLIPが該当

(株)GRIPでは専門知識を必要としない、学校職員や生徒様でも簡単に
体育館のフロアメンテナンスができる方法を開発。
コスト面・衛生面・アフター管理面でもご評価をいただいています。

導入実績<例>



福岡市総合体育館



東海大学



江戸川区総合体育館



公益財団法人
日本ハンドボール協会

スポンサー



燃ゆる感動 **かごしま** 国体
燃ゆる感動 **かごしま** 大会

認定



公益財団法人
日本学校体育研究連合会 優良体育用品



ますます拡大中!



<導入施設一覧>

サンプルのご希望やお見積りなど下記までお願い致します。

店舗名	株式会社グリップメソッド 鹿児島本社	株式会社グリップメソッド 東京支店
住所	〒890-0062 鹿児島市与次郎1丁目5-30	〒105-0013 東京都港区浜松町2-10-11-1F
電話番号	099-806-8686	03-6820-0820
F A X	099-806-5858	03-6800-8430

お問い合わせ



日本の室内スポーツの底上げは「床」から。



スクールシューズのプレミアムスタンダード

教育シューズ® PK-X3



極める

グリップ性

耐久性

超軽量

サイズ…21.0cm~28.0cm 29.0cm 30.0cm 31.0cm アッパー…ポリエステル/人工合皮
ソール…合成ゴム/合成樹脂

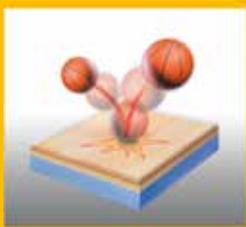
(公財) 日本学校体育研究連合会特別賛助会員
教育シューズ振興会

TEL(086)243-2218 FAX(086)243-2253

(製造部) 日進ゴム株式会社 TEL(086)243-2467

<http://www.nisshinrubber.co.jp>

e-mail:kyouiku-shoes@nisshinrubber.co.jp



スポーツ施設向けシート床材



Point!

- ささくれが発生しない安心の長尺シート床材
- ワックス不要&水拭き可能（アルコール消毒可）
- コートラインが際立つオリジナルカラー
- 保温性と断熱性が避難所としての運用時にも貢献

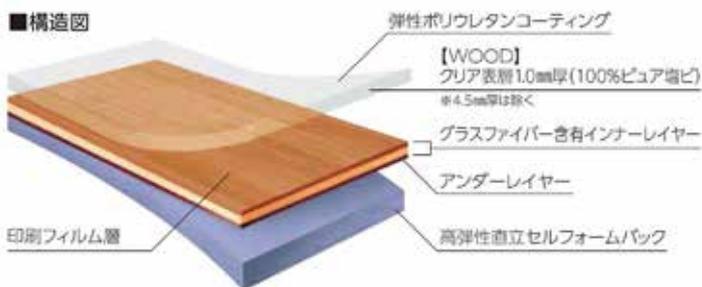
スポーツ施設
向け床材
詳しくはこちら →



高弾性衝撃吸収シート床材 レックスコート



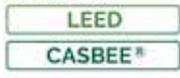
レックスコートは高い衝撃吸収性と反発性、防滑性、減音性を備えているため、下地に直貼りしてもスポーツ床としての高い性能を発揮します。



主な機能



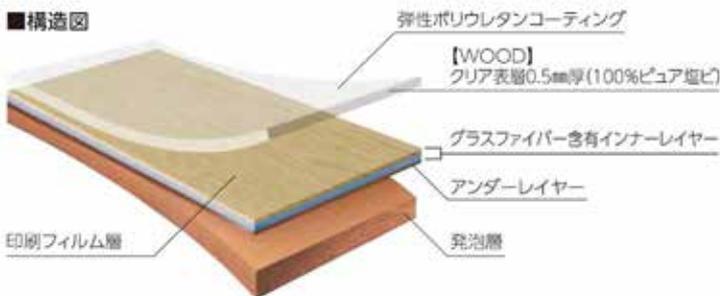
環境配慮



衝撃吸収シート床材 レイジャー4.0



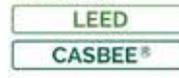
日本初！鋼製床下地との組み合わせでJIS規格に適合した、衝撃吸収シート床材です。



主な機能



環境配慮



（株）染野製作所社製鋼製床仕様 × レイジャー4.0

安全性・快適性を重視したJIS規格に適合したシステムです。

衝撃吸収シート床材「レイジャー4.0」と、スポーツフロアのバイオニアである（株）染野製作所の「ジム・エース」を組み合わせた鋼製床仕様です。すくれた緩衝性と反発性で疲労やケガを軽減し、さらに減音性も高めました。また、ささくれも発生しない、運動に適した安全な床に仕上げます。



株式会社 エービーシー商会

本社：〒100-0014 東京都千代田区永田町2-12-14

最新情報はオフィシャルサイトの
商品情報ページをご確認ください



商品・企業情報 東京・大阪ショールーム

掲載商品のお問い合わせ |

乾式材事業部 info-03@abc-t.co.jp

札幌 011-231-7042

盛岡 019-652-5071

仙台 022-791-8369

埼玉 048-433-7766

東京 03-3507-7221

静岡 054-273-5669

新潟 025-282-0203

金沢 076-260-5289

名古屋 052-307-5927

大阪 06-6944-4905

高松 087-815-1043

福岡 092-413-9056

沖縄 098-864-1250

| その他商品のお問い合わせ | 03-3507-7040

板書
シリーズ

1年分の授業プランが手に入る!

イラストで見る 全単元・全時間の 授業のすべて



QRコードより、東洋館出版社の
ホームページにてご注文ください。

学校教育書
110万部突破! 売上げ
No.1!



授業を効率化する学習カードがダウンロードできる!

本シリーズでは、単元ごとに新学習指導要領に基づく指導・学習
の見通しを示し、各時間の授業展開、学習活動の進め方、指導上
の留意点がひと目で分かるように構成。保健分野は板書例をもと
に、4段階で授業を展開している。

中学校1・2・3年 全3巻

保健体育



東洋館出版社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2丁目9-1
コンフォール安田ビル2F TEL: 03-6778-4343

<https://www.toyokan.co.jp>



健康と安全と教育の「もの・こと」を探究する

スクラボ
教材総合カタログ

学校教材を研究するという意味から、「スクール+ラボラトリー」の略語として
名付けられた総合カタログ「スクラボ」。深い学びに繋がる教材を開発・流通し、
全国の教育委員会や小・中学校にお届けしています。

手のひらテニスのテニジー

- つくろ ●ラケットを自分で組み立てられる!
- あんぜん ●ラケットもボールもやわらかい!
- かんたん ●手のひら感覚でラリーが続きやすい!

体育授業「テニス」の
ファーストステップに
おすすめ!

イージーテニスラケット
テニジー 6個セット



ユニポッチャ rotolo(ロトロ)

- ユニポッチャ rotolo は屋内、屋外問わず、簡単にポッチャが
できるように開発されたポッチャセットです。
- ボールは、耐久性の高い素材を採用し、水洗いや
アルコール消毒もでき、衛生的です。

※実用新案登録：第3220001号

パラリンピック
公式種目

JEMA
安全
安全基準適合品



人気の
ポッチャを
楽しもう



sanwa 株式会社 三和製作所



〒132-0021 東京都江戸川区中央 4-11-8 tel.03-5607-7811(代) fax.03-5607-7812 <https://www.sanwa303.co.jp>

Blanc Roche



フルオーダーメイド ウェア・シューズ

【取引先】

都内を中心に100校以上の幼稚園・小・中・高・大学

《体操着・水着・上履き・通学帽・体育教材・備品・部活用品》
ゴール・ネット・マット・支柱・ハードル・プールフロア・ラインカー
ネーム加工 ユニフォーム・シャツ・ジャージ・バッグ・ボール

【取扱いメーカー】

アシックス・ミズノ・アディダス・ナイキ・プーマ・ノースフェイス・チャンピオン・アスレタ・コンバース・デサント・D&M・ゼット・エスエス
ケイ・ウィルソン・ハイゴールド・アンプロ・シュアプレー・ヒュンメル・ルコック・ディアドラ・ペナルティ・モルテン・セイコー・ゴーセン・
ニューバランス・ヨネックス・ナガセケンコー・エバニュー・トーエイライト・ミカサ・鐘屋産業・奏運動器具工業・仲條・成美堂スポーツ出版・
ダイケントップ・ニチバン・KT・ルーセント・ヤサカ・ヤマト卓球・日本卓球・タマス・九桜・早川繊維 他多数

ブランロッシュ株式会社

東京本社 〒176-0006 東京都練馬区栄町32-15 TEL: 03(3994)1055 FAX: 03(3994)1079
埼玉営業所 〒359-0026 埼玉県所沢市牛沼431-4 TEL: 04(2001)6421 FAX: 04(2001)2323

ブランロッシュ公式ホームページ <http://www/blanc-roche.com/>
ブランロッシュヤフー店 <http://store.shopping.yahoo.co.jp/blanc-roche/>
お問い合わせ メールアドレス school@blanc-roche.com

祝 第62回全国学校体育研究大会山形大会

中学校 / ビジュアル



新しい 体育実技

教師用DVD-ROM



2枚
付き

生徒も動画データを
スマートフォンや
タブレットなどで
見られるようになりました!

▶新学習指導要領に対応した新コーナー

「運動やスポーツへの多様な関わり方」や「高まる体力」などを
考えられるようにしました。

▶写真点数3,500 圧倒的な迫力

鮮明な連続写真を豊富に掲載し、
動きのポイントをわかりやすく提示。

▶約800点の動画などを収録したDVD-ROM付き 教師用

動画集には14種目約800点のデータを、図版集には技能の
イラストのほか、競技場・コートなどの図版を約200点収録。
動画は生徒への演示に、図版集はテスト作成にご活用いただけます。

B5判/346頁/4色刷 定価 **820円** (本体746円)

文部科学省「新体力テスト」実施要項 準拠

NEW 小学校・中学校用

体力テスト 診断システム

「NEW体力テスト診断システム」の特長

- 測定項目だけではなく、生活習慣や健康意識にも着目
- 一人ひとりが自分の身体を知り、自分の体づくりを考えて、
実行していくことができるよう、充実したデータを提供
- 迅速なデータ処理で記録表到着後約2週間で結果を返却
- ご希望校には、都道府県提出用資料を作成 (CD-ROM)
- 過年度の測定データ (エクセル形式) があれば、
経年比較の資料を提供

児童・生徒
1人あたり **224円** (本体204円)

詳しくは
こちら



東京書籍

義務教育部 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel: 03-5390-7490 Fax: 03-5390-6012



スポーツと健康の
未来を創る。

夢の舞台に挑む

アスリートたちの躍動を、最大限に引き出すために。

セノーは100年を超える歴史で

培ってきたあらゆる技術と経験を集結。

最高峰の品質を求めた

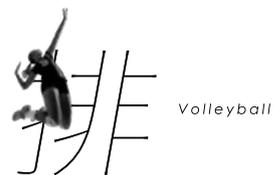
スポーツ器具でサポートしています。

すべてのアスリートたちと同じように、

セノーもさらなる高みをめざして。

最高のプレーを支える器具にも

ぜひご注目ください。



Volleyball



Gymnastics



Basketball



Rhythmic
Gymnastics



Senoh セノー株式会社 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台250 Tel:047-311-8912 Fax:047-385-9177 <https://www.senoh.jp>



副長官



ウェルビーイングな社会の実現

大人も子どももホンキであそぼう!!

Asobi
in Life

長官



授業で使える運動あそびを
YouTubeで130本公開中!!



あそび庁

検索



こちらのQRコードから視聴ください
チャンネル登録お願いします



【新体カテスト集計・分析システム】

(文部科学省発表新体カテスト準拠)

体力づくりをめざして

- 個人票はカット済み
- 部活顧問用資料を充実
- 測定実施の完全バックアップ

集計・分析処理料金(1人分)

242円(税込)



みつめたい教育と未来

第一学習社

以下の資料をお届けします

- 学校総括表
- 順位一覧表・級門分布表
- 判定別一覧表
- 生徒指導カード(個人カード控え)
- クラス台帳
- 生徒指導台帳
- 部活分析表
- 運動部活別比較表
- 部活台帳
- 学校集計資料・保健部資料
- ★教育委員会提出資料を完備

TEL 082-234-6806 FAX 082-503-3084 〒733-8521 広島市西区横川新町7-14

- 大阪支社 / ☎06-6380-1391
- 新潟営業所 / ☎025-290-6077
- 横浜営業所 / ☎045-953-6191
- 福岡営業所 / ☎092-771-1651

- 札幌営業所 / ☎011-811-1848
- つくば営業所 / ☎029-853-1080
- 名古屋営業所 / ☎052-769-1339
- 金沢出張所 / ☎076-291-5775

- 仙台営業所 / ☎022-271-5313
- 東京営業所 / ☎03-5834-2530
- 神戸営業所 / ☎078-937-0255
- 沖縄出張所 / ☎098-896-0085



教材通販

smartschool[®]
for TEACHERS
スマートスクール

smartschool for TEACHERS は

体育の授業で使う用具 も 手軽に早く揃う

教材通販です。

掲載商品は
こちら



忙しい先生を、1年を通してサポートします！カタログをご希望の際は担当販売店まで。



▶今すぐスマートスクールWebにアクセス！

<https://www.smartschool.jp>

検索

マスク



▶スマートスクールお問い合わせセンター

TEL: 0120-598-721

平日 9:00~17:30
※祝日、年末年始を除く

体育の学習



大判化で、イラストや写真が見やすい！

連続写真でわかりやすく解説！



二次元コードから動画が見られる！！

『体育の学習』対応 デジタル図書教材

デジ体

デジタル 体育

DVD版

アプリ版

*DVD版「デジ体」は、児童書+指導書をセットでご探採いただいた場合のみ、指導書冊数分をお送りします。

*アプリ版は、児童書+指導書のご探採校へ認証コードをご提供します。認証コードで、全コンテンツが利用できます。
・アプリ版は、アプリストアからインストールしてご利用ください。



よくある「つまずき」に対応した解決法を動画で確認！

800本以上！

動画撮影&保存機能も！
動きの確認や、評価に役立つ！



デジ体の詳細はこちら→



学ぶことが好きになる。

光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町14
TEL:03-3262-3271(代表)
<https://www.kobun.co.jp>

ミズノグループの総合力

■スポーツ施設運営・サービスの提供 ■スポーツ施設的设计・施工 ■スポーツ施設用品販売



スポーツ施設设计・施工
運動プログラム・
サービスの開発・提供



MIZUNO WELLNESS LIFE DESIGN



スポーツ施設管理運営
スポーツ教室・
イベント企画運営

ミズノスポーツサービス



体育施設機器・
器具设计、
施工販売

ミズノ 株式会社 スポーツ施設サービス事業部

〒559-8510 大阪市住之江区南港北 1-12-35
TEL: 06-6614-8184 FAX: 06-6614-8343
〒101-8477 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL: 03-3233-7235 FAX: 06-3295-4286

ミズノ 施設 検索

Physical Exercises
Gymnastics
Track&Field
Swimming
Basketball
Handball
Soccer
Volleyball
Soft Tennis
Table Tennis
Badminton
Softball
Judo
Kendo
Sumo
Dance
Skiing
Skating
Outdoor

学校体育教育の新時代をひらく あかつきの副読本&ワーク



図解
中学体育



新保健
体育ワーク



新保健
ワーク

お手もとに，ぜひ。

あかつき教育図書

〒176-0021 東京都練馬区貫井4-1-11
営業部 ☎03-3577-8966
<https://www.aktk.co.jp/>



理想の教育、体育を研究する。

株式会社
こども体育研究所

大宮本社
〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町1丁目38-1 アソルティ大宮 ル・ノード3F
☎048-657-2550 (代) ☎048-657-0550

横浜支社
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-23-3 新横浜 AKビル 2F 2-1
☎045-624-9482 (代) ☎045-624-9483

支部
岩手・仙台・石巻・山形・福島・新潟・宇都宮・茨城・水戸・千葉・さいたま・神奈川
静岡・東海・関西・中国・松山・福岡



ハードルアタッチメント

EVERNEW

BIYON^{bar} びよ〜んと折れて痛くないハードルへ



EGC230 : BIYONバー (2本入り) 金額 : 8,000円 (税込 ¥8,800)

BIYONバーってどんな物？

バネ式ハードルのバーを普通のハードルにも取付けられる新商品！



バーが破損、紛失したハードル

バーが無くなったり、破損したりしたハードルをに取付けて再利用できる



バー受けにフィットする
※エバニュー製ハードルにのみ取付ける事ができます



どんなハードルもバネ式に変身

バー受けを活用してバネ式に変身させます。
バーのみ販売なので通常よりも安く購入できます。



バーが、曲がって痛くない

ぶつかってもバーが曲がり、通り抜けられる為
転倒と起こす手間を省いて何度でも挑戦できる

株式会社 エバニュー

本社：〒136-0075 東京都江東区新砂 1-6-35 JMF ビル東陽町 02 6F
TEL.03-3649-3052 (代) FAX.03-5683-5946
E-mail:a-f@evernew.co.jp
大阪営業所：〒542-0061 大阪府大阪市中央区安堂寺町 2-3-5 第18 松屋ビル 9F
TEL.06-6762-2431 FAX.06-6762-2425
E-mail:osaka@evernew.co.jp

※本製品はアタッチメントのバーのみ販売です。ハードル本体は付属しません。
※仕様の都合上、既製品の板バーよりバー上面が2cm高くなっております。
※以下の品番の製品に取付けできません。お手持ちのハードルをご確認の上
ご購入お願いいたします。
・他社製のハードル・EGC221・EGC225・EGA079・EGA080・EGA138
・EGC066・EGA111・EGA112

BIYON+

「中学 保体資料ノート」

毎年新しいコンテンツが続々と登場！



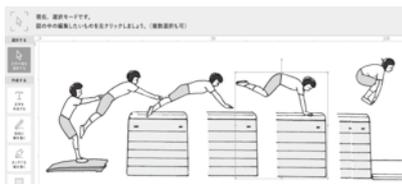
保健体育の先生方
の間で話題に
なっています！

8 正進社
SEISHINSHA

<http://www.seishinsha.co.jp/>

POINT 1

学習カードやテスト作りに便利！
「いじれるイラスト素材」



▶イラストの一部を移動したり、消去したり、
角度を変えたり、自由に加工できます。

POINT 2

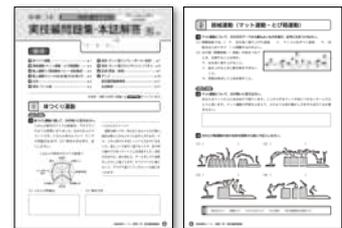
動きをじっくり観察できる！
「お手本動画」



▶横・正面からの映像で動きを確認できます。

POINT 3

テストやプリントにも使える！
別冊「実技編問題集」



▶思考・判断をはかる問題を収録しています。

Gakushin®

SCHOOL SHOES
S-2800



S P E S スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

School Shoes としての耐久性
ただ長持ちさせるのではなく、
運動性能と安全性能も大切です。

協和株式会社 神戸市長田区西尻池町1丁目3番8号
TEL : 078-611-4376(代)

GOLDSTAR
SPORTS SCHOOL SHOES

GX



体育館
シューズ

S P E S スペース
学校体育シューズ研究会
School Physical Education Shoes

高機能・ジャストフィットを実現
超軽量モデル 片足 (24.5cm) **290g**

ASTICO 岡山県岡山市中区江並417-1
株式会社 **アスティコ** TEL : 086-276-2010(代)

明るく 楽しい スクールライフ!

水泳・学校用品を発売し今年で53年。
世の中は大きく変わり、学校の教育現場も目まぐるしく変化している今、制服も自由を選ぶ時代になりました。
そこで男女で共用でき、誰もが快適に着用できる新しい水着をつくりました。
一人一人の生徒が自分らしく授業に参加できる、そんな新しいスクール水着です。

NEW ジェンダーレス対応スクール水着

男女共用セパレート水着

詳しくは中面をご覧ください ▶



The beginning of
a new era!



大修館書店

■お求めは書店または小社HPへ… <https://www.taishukan.co.jp/>

COMMUNITY SPORTS CLUB ACTIVITIES

運動部活動から 地域スポーツクラブ活動へ

●A5判・338頁 定価2,750円(税込)
978-4-469-26965-9

新しいブカツのビジョンとミッション

学校で取り組まれてきた運動部活動は、これから地域に移行して、「地域スポーツクラブ活動」として展開していく。だが、長く学校に根付いてきた部活動を地域に移す試みに、戸惑いや不安の声は少なくない。また実務の面でも、環境の整備や指導者と財源の確保、関連諸制度との整合性など、解決すべき課題が山積している。本書は、こうした課題の解決に向けて、新しいブカツの理念や仕組み、実務の方策などを解説し、先行事例までをカバーした。新しいブカツに携わる教育委員会担当者、スポーツ団体関係者、地域スポーツ指導者には必読書となる。運動部活動の講義にも最適のテキスト。



【目次】第1章 これからの地域スポーツクラブ(運動部)活動の展望を拓く/第2章 新しい運営団体・実施主体に期待される役割/第3章 運動部活動のこれまで/第4章 地域スポーツクラブ(運動部)活動のリスクマネジメント/第5章 指導に活かすスポーツ医学/第6章 これからの地域スポーツクラブ(運動部)活動を豊かにするマネジメント/第7章 これからの地域スポーツクラブ(運動部)活動の参考実践

本格化する運動部活動の
地域移行に備える1冊!



詳しくはこちら

研究と実践の架け橋になる月刊専門誌

体育科教育

毎月14日発売

定価913円(税込)

●B5判

小・中・高・大学の体育指導者や専攻学生を主対象に、体育・スポーツの諸問題を、幅広い教育的視点から毎回特集形式で編集。学校現場の課題解決に、よりよい授業実践に、教材開発や授業研究に、最新の話題入手に、理論武装に、役立つ情報を満載しています。また、新しい学習指導要領に対応した内容も豊富です。

『体育科教育』の年間定期購読を

おすすめします! お申し込みいただくと以下の特典があります。

特典 1 **本誌1号分サービス!** 定価913円×12号分=10,956円 → 特価10,043円(税込)

特典 2 **送料無料!** 小社負担でお手元にお届けします!

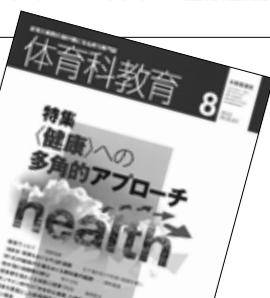
お申し込みは小社HPで! 二次元コードからもアクセスできます▶



最近の主な特集

体育・スポーツを通した価値の実現/〈健康〉への多角的アプローチ/子どもたちが「見通し」を立てて学ぶ/ICTの活用で体育の学びの質を高める【小特集】U30体育論議/体づくり運動の新しい授業デザイン【小特集】準備運動、どんなことしてる?/ここまで見えてきた!2017年版要領下の授業実践/①小規模校の体育を知らう・学ぼう!②見学者の対応、どうしてる?/……

*価格は2023年8月現在のものです。今後価格を改定する場合がありますので、ご了承ください。



みんなの 体育

改訂版

表紙から二次元コードで
「みんなの体育デジタル
コンテンツ」にアクセス!

- 動きのポイントがわかる
「ぱらぱらイラスト」
- 思考や発言、関わり合いを促す
「学びの場面チェック」
- 技能動画 など



児童書（1～6年学年別 計6冊、A4判）

- 1年 本文 各 52 ページ
- 2年 本文 各 52 ページ
- 3年 本文 各 68 ページ
- 4年 本文 各 68 ページ
- 5年 本文 各 96 ページ
- 6年 本文 各 96 ページ

- デジタル版（クラウド版）も新規に発行！
- 教師用指導書も完備！

● 詳しい内容は、下記へお問い合わせください。

株式会社Gakken

〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL 03-6431-1151

学研 学校教育ネット

<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>



目指しているのは、

人づくり



わたしたちは、

たくさん思い出づくりの

お手伝いをしています。

でも、いちばん目指しているのは

「人づくり」。

わたしたちは、

たくましく生きる力を育成し、

新しい時代に活躍する

「人づくり」に

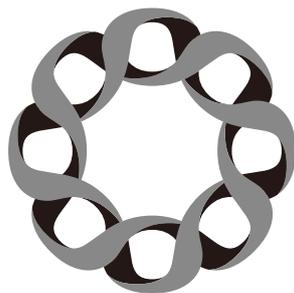
貢献します。

 東武トップツアーズ

<https://www.tobutoptours.co.jp/>

「Make It Real」

本当に良いモノを考え実現させる



Columbine

The Guardian of School Life

当社の体操着が、安心・安全な理由。
機能はしっかり、でも着心地はやさしく。

体育授業だけでなく、学校生活のさまざまなシーンで着用される体操服だからこそ着心地のよい、安全なもので過ごして欲しい。機能はもちろん、お手入れの手間も減らしたい。沢山の願いをカタチにし、お届けします。

(公財)日本学校体育研究連合会賛助会員

(公財)日本学校体育研究連合会推薦品

 **児島株式会社** つねによりよい学校体育の環境づくりを提案しています。

本社／〒711-0911 岡山県倉敷市児島小川 2-4-60 TEL 086-473-4634 FAX086-472-0866

関東営業所／〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町 1085 TEL 048-642-5883 FAX048-642-4766

盛岡営業所／〒020-0846 岩手県盛岡市流通センター北 1-4-18 TEL 019-638-7501 FAX019-637-0144

URL:<http://www.kojima-gp.co.jp> E-mail:gyomu4@kojima-gp.co.jp